光

第二十六輯

大正十二年八月

◇天華香洞抄……………………（二）西田天香

◇宣光社産業經營論……………伊藤猛

◇Y・K・Kの會員と語る……松下吉衛

◇光の友へ一つの申出で………谷口雅春

◇樹下石上抄……………………紫雲蓮車

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

◇光明へ…………………………八田勝三

◇一佛人より天香師へ…………ヴォエセー

◇惠まれし日を回想して………安藤州一

◇柿の木は育つてゆく…………白彦

◇光讀者芳名錄……………………

一燈園・宣光社

26

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

一、本誌の殘本第三號以下全部、多少づゝありますから御希望の方は、御申越し下さい。

一、讀者諸兄姉が御住所變更の際は、新舊とも御連記の上、一寸御通知お願ひします。

一、集金郵便は郵便局に極く遠い方の外は、他に餘儀ない事情のない限り、成る可く御避け願ひ度う御座います。しかし集金郵便御希望の方には規則改正の爲一ヶ年分の誌代を戴かして貰ひますから豫め御承諾を御願ひ申します。

一、御送金は成る可く振替を御使ひ下さいませ。又普通爲替の場合は書留にして戴き度う御座います。

一、御前納下さつた誌代が切れた時には封皮に其旨記載し其後も二三ヶ月間は御送りいたして居りますが、猶御送金の無い場合には、整理上甚だ勝手がましくありますが一ヶ年分の集金郵便を差上げる事にいたしてをりますからこれ亦豫め御許しを乞ふて置きます。

一、御住所不明で戻つてまゐります雜誌は再送せず、そのまゝにしてありますから月々御受取なさらぬ方は御一報下さい。

一、購讀御中止の方は恐れ入りますが、必らず御一報下さい。

一、本誌は現在四千部刷つて居ます。基礎を堅める爲に、許されるならばあと千名の讀者諸兄姉を惠まれたいのです。若し本誌のやうなものでも幾分御役に立つと思召しの方はどうぞ御知合に御紹介下さるやうお願ひ申上げます。

一、御不便な地方の方には、書籍其他購入の便宜をおはかり致しますから御遠慮なく御申越し下さい。

一、全國各地に於ける『光の友』の機關誌として、本誌を御使ひ願はうと存じますので、どうぞ御動靜を左記に御通知煩はし度う御座います。（東京市上戸塚五八〇宣光社内松下吉衛宛）

京都市柳馬場三條下ル

本誌發賣所　宣光社

振替大阪五九八三九番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天華香洞錄抄

智識階級の承認せんことを願はざれ。天理教祖も學者と金もちあとまはしといひたりとか。又その恩恵によらざれ、淨財にはみ淨信により淨智をのみ用ひよ懺悔の心なき智識階級の力を用ひざれ。如此は彼等をしてその功なき力を倚捨つる能はざらしむる也。別に國を建てよ淨土を建立せよ。天祐の保全により聖天子は必ず之を嘉し給ふ。

來るべき救世主は學者の形をもつて出でざるべし。況んや富めるものゝ中より出でんや。學者と富豪は終りに隨喜すべき也。靈魂は智愚貴賤貧富を通じて同じ一つ也。貧しき愚かな賤しきものゝたましひをまづ救へ。實は是等の人は神の御心にかなふや多し。德を亡ぼさず謙遜にしてよくはたらけるもの也。キリストが此階級より使徒を作りたるも此理による。釋迦の弟子もかくありしならむ。後に智の人來りて驚き隨喜し玆に博く傳はるなり。ポーロの如き。併し此時又信仰が智的になる恐れあるなり。

古今東西の歴史文明はみな我心の自然と、忽然念起の妄想とが織りなせるものなり。我心内に深く立入り

西田天香

てしらぶれば明瞭となるべし。何ぞわづらはしく海を渡り又は書をひもときて覺束なき人の智と文學の力をかるべきや。

あゝ此境。

天理教祖が毒をのむもはき出したり(自ら)。此境相續せば食をむさぼらず何でもうまく、筋肉緊張、自然に動き、無相無緣の慈悲等皆あらはる。

誠に是大醫王なり。如何なる藥も此力に及ばず、外的醫術の力なきは之れによりて知らる。之を知らざるものに知らしむるには信より外になし。第一人格を信ぜしめ、第二其形を採らしめ(戒)、第三其境に至らしめ(定)、第四次に比較研究して一般に普及せしむ(慧)

玆に於て人格を大切にする必要あり。少しも敵を作らざれ、行儀正しく等數々。

己の身持より始める。來る人々來れば感化を受くるやうに朝早くあふなども妙也。靜坐に集るに早朝を以てするなども二重の利ある也。

誘惑より遠かる事。充分出來上つてから誘惑中に入りて他を救ふ。(大正四年記)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

宣光社產業經營論

（光二號宣光社の概要補遺）

伊藤猛

宣光社產業の意義

宣光社とは、天華香洞に立ちて、隨喜供託されたる財物事業の整理經營に從事するを云ひ、其經營管理する事業を宣光社事業と稱す。而して宣光社事業のうち農工商等所謂產業に屬するものを、宣光社產業と總稱す。玆に述べんと欲するは、產業全體に關する通論なり。農工商業に關する各論は、他日發表するの機會あるべし。

第一　宣光社產業

事業の目的

第一宣光社產業の目的は、（光と世間一切に對する奉仕にあり、卽產業に卽して眞道を行じ、以て葛藤と紛爭との因とならざる方法により、眞に利用厚生の資とならんとするにあり。

現代資本主義の經濟組織は、私有財產制度と自由競爭制度の上に築かれたるものにして、今や一切の產業は、營利の爲めに營まるゝと云ふも過言にあらず。斯くて、其眞の目的が奉仕にある事を忘れて、只營利にのみ汲々たる爲め、事業本來の機能を充分に發揮する能はず。勞働者の生命を害ひ、消費者を苦しめ、事業自體も亦恐慌てふ週期的疾患にをかされ、浮沈盛衰定まらず。宣光社は、現代社會の弊害を釀成せる商業主義の酵母たる財物私有の觀念を淨化し、光化し、奉仕經濟を建設して、此積弊を除かんとす。營利經濟は、一私人の私腹を肥やすを主眼とするも、奉仕經濟は、ひたすら經世濟民の道を講ずるにあり。營利經濟は、私利に目眩みて、不自然なる發達を遂げ（徒らに生產の增大を計るを以て、消費之に追求する能はざるは、其一例なり）、自滅の道を急がんとするに反し、奉仕經濟は、私利に執着する事なく、事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

業本來の面目を持して、其機能を充分に發揮せんとす。

斯く云へば、論者は必らずや反問せん。現代產業界の發展は、商業主義の賜なり。現代文化の進步は、各人が皆自利を追求して止まざるが爲めに招來せられたり。夫れ奉仕とは、空疎の概念なり。かゝる力弱きものにて、產業界の發展を期せんとするは、社會の實情に通ぜざる迂論なりと。思ふに、資本主義時代に於ても「產業生活に於ける人と雖、只貨幣額の多寡を以て、一切の行事を計算し盡くすものにあらず。多くの場合に於て、近世企業家の行動を最强く支配するものは、他人に打克たんとの名譽心卽認識衝動並に常に何事をか成さずれば已まざる行動衝動にして、貨幣利益の得喪は、却つて度外に附せらるゝ場合往々之あるを見る」ものなり。況んや、人心の奥底より滲み出づる懺悔奉仕の念が、單なる金儲てふ動機よりも、更に眞實に人を活かし、事實を活かす力大なるは、靈的經驗あるものゝ信じて疑はざる所なり。現代經濟乃至生活組織の根本思潮は、功利主義を基調とせる幸福經濟なり。而して此幸福經濟の觀念の純化は、一切のものを殺すべからず――人格をも――各其本性に於て活かすにあり。かくて幸福經濟の觀念を淨化し、其染着を去るとき、吾人の提唱する奉仕經濟と其働きを等しうするものなり。

事業資本

宣光社の根本資本は光なり。而して此無形の資本は、一燈園宣光社同人の根本祈禱より生れ出づるものなれば其增減は、吾等同人の光明祈願(實際生活に投影せる)の深刻なると否とに、關係する所頗る大なり。

宣光社の事業資本は、光に献げられたる淨財なり。事業資本を別ちて、固定、流動資本の二種となすが何れも光に献げられたるものたるべし。宣光社に、機械其他の工場設備の使用を信託せらるゝ事あるべく、又宣光社が進んで賃借する場合もあるべし。後者の場合に於ては、其事業の經費を膨大せしむるものなれば、愼重の考慮を要すべきは言を俟たず。一般財界に於ける投資者は、企業利潤を目的とするものなるを以て、事業永遠の利益を顧慮するの暇なく、只利益配當の多からん事を希望するは蓋止むを得ざる所なるべし。斯くて經營上種々の無理を生じ、事業の成育を阻害し、人と世とを損ふ場合尠なからず。宣光社の資本は光に屬するを以て、利益配當を强要さるゝ患なく、又其目的は奉仕にあるが故に、無理

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

してまで收益を擧げざるべからざる必要なし。只充分に事業本來の面目を發揮し、自然に集り來るものを收得せば足れり。是宣光社産業の一大特色なり。

事業主と其管財人

宣光社の理想は、あるがまゝの經濟を建設せんとするにあり。この自然法爾の經濟に於ては、物と共に人も亦自然に屬す。こゝに自然とは、實相なり。光なり。かくて事業の眞の持主は光なり。されど光とは形而上のことにして、法律上の人格者にあらざるを以て、權利義務の主體たるを得ず。茲に於てか、管財人を選任せざるべからず。管財人たるものは、光にひれふし、光の心持ちにて之を預るべく、聊かも私有の念あるべからず。されば己も其家族も共に光に養はるゝ同人のみ其資格者たり得べし。

今宣光社の組織を案ずるに、宣光社に消費者としての宣光社と生産者としての宣光社との二あり。消費宣光社は、財團法人組織を採り、其事業は懺悔奉仕の精神を基調とせる教化慈善救濟其他の社會事業たるべし。生産宣光社は、農商工等の生産事業に從事するものにして、其組織は、個人組織又は株式組織等事業に適切なるものを選ぶを可とせん。而して生産宣光社が收得せる利益の大部分は消費宣光社に供養され、夫々意義ある用途に使用さるべし。

事業の選擇

宣光社は本來、隨喜供託されたる事業の整理經營に任ずるにあり。賴まれて資生産業に入店垂手するにあり。斯くて提供せらるゝものは、多くは個々具象的のものにして、又眞に賴まるれば辭するを得ざる立場にあるを以て、事業選擇の餘地少なしと云はざるを得ず。されど法界より或は特定の人より、宣光社の建立を賴まれ又淨財備らば、新規の事業を起さゞるを得ず。從つて如何なる事業が、宣光社の理想を實現するに適切なりやの問題を研究するも亦無益ならざるべし。

事業選擇の標準たるや多々あるべしと雖、余は左の數項を擧げんとす。今必要と希望との二項に分つて述べん

イ、必要事項

一、文化を催進し一般民衆の厚生に資すること多き事業を選び、諸惡の根本又は助因となり世道人心に害あるものは避くるを可とす。

快樂經濟の根本思潮たる快樂主義の下に於ては、富は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

其質の如何に拘はらず、人の欲望を充足して快樂を與ふるを以て、人生有用のものとなすと雖、是れ誤れる見解にして、現今社會の物質過重の弊は、こゝに胚胎せり。理想主義人格主義の下に於ては、富は人格の發展を助くるにあり。例ひ欲望を滿足せしめ得るも、人格の發展を害するものなるときは、人生に有害なり。宣光社が諸惡の根本又は助員となるべき事業を排する所以も亦茲にあり。(不二の生活者は、隨喜信託されたる場合には、かゝる事業に携はるも辭せざる事は光二號拙稿參照）眞に一般民衆の厚生に資し、文化を催進する爲めには、眼前の利に眩みて餘剩價値大なる事業をのみ漁り、永遠に於て人力並に天然資源の濫費を招來するが如き經濟行爲を愼まざるべからず。是宣光社がなるべく贅澤品を避け、日用必需品の生産交易を選び、又一面廢物不用品の利用に着目して眞に利用厚生の資となし、他面光物尊重の念を普及徹底せしめんとする所以なり。(光二號拙稿參照)

二、製品市價の變動著るしからざるものを選ぶを可とす。

恐慌は資本主義の疾患なり。財界の盛衰浮沈は、今や人力を以て阻止し得ざる狀勢にあり。されば、時々襲ひ來る財界の怒濤に浸害さるゝ事可成尠き事業を選ぶの外なし。事業の基礎を强固ならしむるは、尤も安全の方策たるは、言を俟たずと雖、市價の變動著るしからざる商品の生産交易を選ぶも亦一策なり。而して日用必需品に關するものは、其一つなり。

ロ、希望事項

三、資本主義の下に於ては、宣光社の理想を充分に實現せんとせば、一般産業界の趨勢に伴ひ、大經營組織により産業界を横斷せざれば、不可能なるべし。されど斯る事は、創業の當初より實現し得べき事にあらざるを以て、其計畫にて將來縱横に充分伸び得る底の事業を選ぶの外なし。

四、事業の經營に就ては、其規模の大小を問はず、生産交易上相當の熟練を要するは言を俟たず。此見地より同人或は因緣ある者の習熟せる事業にして、前陳の條件に叶ふものあらば可なり。

一、事業の經營

イ、經營方針

學者は經濟原則なるものを立て「最少の勞費を以て最

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

大の效果を擧げ、最大の滿足を得ること」を以て目的と爲せり。されど斯くの如きは、人間の經濟行爲にのみ限られたるものにあらずして、人間の個人的社會的百般の行爲に遵奉さるゝ所にして、人間合理行爲の原則とも名づくべきものなり。宗敎上に於ても、他に之を妨ぐる事情なき限り、吾人は、一定の行爲に要する勤勞又は出費の最小にして、其效果の最大ならんことを期せざるはなきなり。宣光社の經濟活動に於ても、此經濟原則の緊密なる適用を見るべきは言を俟たず。

現代企業の目的は、剩餘經濟（バランスエコノミイ）にあり、即換言すれば、事業の總收入額より總支出額を差引きたる純利益額の多からん事を期するにあり。されば企業の經營者は、生產販賣財政何れの方面に於ても、人と物の處理上、最高能率を發揮する能率增進策と、冗費を節約する經費節減策との二方策を併用す。何れも科學を基調とする近世技術の應用に俟つべきは論なきも、其具體的方策は、企業の種類規模の大小により、自ら異ならざるを得ず。余は玆に其具體的研究を試みんと欲するものにあらず、只宣光社の之に對する根本觀念は、一般企業家の夫れと大に異る點あるを以て、少しく說明せんと欲するのみ。而して今の所謂能率增進經費節減なる語は、其根本觀念に於ては、舊來の勤勞、儉約なる語と相通ずるものなるを信ずるを以て、此二者に就て述べん。衣食の爲めに、老後の爲めに、或は資本家となりて財物を享樂し若くは權勢を振はんが爲めに、勤勞し又は勤勞を人に勸むるは世間普通の事なり。されど宣光社の祈願する所の勤勞は、之と大いに趣きを異にす。謝恩の爲め、懺悔の爲めの奉仕、醒めたる魂の奥底からこみあげ來る働かねばならね念願からの勤勞、是宣光社の理想とする所の勤勞なり。能率增進を目的とせずとも、至純なる生命の躍動は、高き能率を發揮するものなり。世間普通の人の抱く儉約の考は消極的にして、自己の富を維持し又は增殖せんが爲め、或は又企業の收益を多からしめんが爲めなる場合多く、眞の利用厚生はいまだし。一塵一草も光のものなり、一片の紙屑、一粒の飯も光よりの預り物なり、無駄にすべからずとは、宣光社の物の見方なり。蓄財の爲め、營利の爲めになすにあらず、光物尊重の念より、冥加の思念より、其保管利用消費何れの方面にても、大切に取扱ふものなり。一滴の水と雖殺すべからず、生さざるべからず、即あらゆる人と物とを生かし切るが、宣光社の理想

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なり。されば、工場設備其他の固定資本原料用品等の流動資本、其他勞力等に就ても、其最大能率を發揚する事不可能ならざるべし。

宣光社産業は、既に述べたるが如く、强ひて過分の財を占有し、又無理に利潤を增大せんと願ずるものにあらず。只資生産業に携はる因緣上集り來るものを收得せば足れりと雖、世の所謂慈善救濟の事業にあらざるを以て經濟理法に從つて着實健全なる發達を計り、事業の繁榮を企圖すべきは無論なり。今宣光社が、其産業經營上特に實現せんと期待する事項の主なるものを述ぶれば左の如し。

一、事業關係者全體の修道を重んずる事

マーシャル敎授は其著經濟原論に於て、「人の生活資料を得る爲めの業務は、一般に其精神活動の最も旺盛なる時局を充すものにして、此時に於て人が其才幹を作業の上に用ふる狀態、其作業に關聯して起り來る思想感情、並に作業の同僚雇主或は自己の使用人との關係等は、其性格爲人を形成するものなり」と述べ、經濟生活並に組織が如何に人格發展の上に重大なる意義を有するかを明かにせり。然かるに吾人の日常生活は、殆パンを獲んが爲めの勞作にして、之が爲めに紛爭葛藤絕えず、殆寧日なき狀態にあり。是人皆我執の囚縛を脫する能はず、自他一體觀に立つ能はざるが爲なり。我等は、懺悔奉仕の生活を祈念して、地上に愛と自由の渾然融和せる天國を建設せんとす。かくて久しく背反せる經濟と宗敎道德藝術哲學等との調和を招來する事を得べし。是宣光社が我執を脫落せしむる所の修道を重視する所以なり。宣光社産業は優良なる物價を安價に産出し交易するを以て滿足せず、事業に關與する者の人格を陶冶し、優良なる人物を出さん事を熱望す。換言すれば、宣光社は工場商店其他の仕事場を同時に道場たらしめん事を理想とす。

二、一般從業員に對しても、なるべく事業の經營に參加せしめ共存共榮を擧ぐる事

現時産業界に於て最も悲慘なる境遇にあるものは、生産者たる勞働者なるは、否定すべからざる事實なり。雇主の定めたる勞働狀件に殆んど盲從し、終日營々として無味單調なる一局部の勞役に從事す。而して其獲得する所の生活資料は、辛うじて其生存を維持するに過ぎず、文化の恩典に浴し得る機會を與へらるゝもの稀なり。世の企業家の多くは、此種の賃銀奴隷より、最高能率を搾

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

取せんとするも、そは無望なり慘酷なり。宣光社は、現代經濟界の許す範圍に於て、出來るだけ各人の人格を尊重して、事業の經營に參加せしめ、其インセンチーヴを誘導し、活き〳〵と其勞役を樂む事を得せしめんとす。思ふに、現代資本主義の下に於ては、株主と雖企業に關與せず、又取引上の支配も不可能なり。されば勞働者をして、企業全般に對する參政權を得せしむる事は、到底不可能なるべく、勞働者をして企業の內部經營に於ける參政權を得せしむる事卽工場經營の民衆化を以て滿足するの外なかるべし。經營の民衆化とは、一工場一經營を代議政治によつて運用するにあり。小工場にて全員議員たるを得ば全部にても可なり、然らざれば、代表議員を選出せしめ、職工議會を月一回乃至數回開き、工場經營に關する技術上經濟上の問題を議決し支障なき限り其決議を待つて、作業上一切の事項を決定し、工場長は、其決議執行の任に當るべき義務あるものとすべし。未だ我國の勞役者は、自治的訓練に乏しきを以て、直ちに企業の經營に參加せしめ得ざるは勿論、工場の經營にさへ覺束なしと思はるゝ點尠なからざれども、我宣光社は、勞役者の自治的訓練をなし、順次其參加の範圍を大ならしめ、なるべく事業に參加せしむるの方針に出でんとす。

三、消費者に對しても、なるべく低廉なる物貨を供給して、奉仕の實を擧ぐる事

現代の企業は、カルテル、トラスト等を作り、市場を獨占して企業の收益を增大せんとす。之に依つて私經濟上國民經濟上利益する所大なるは論なきも、之が爲めに消費者を苦むる事亦尠なからず。宣光社は民衆の生活を脅威してまで、其收益を擧ぐるを許さず。否寧ろ低廉なる物資を供給して、なるべく民衆の生活を安定せしめん事を期す。近時漸く盛ならんとする「生産者より消費者へ」の運動も亦我等の贊同する所にして、極力開拓せんとする一分野なり。

四、賣買取引先其他事業に交渉あるものに對して、宣光社の祈願を感應せしむる事

生存競爭に疲れ、或は意義なき生活に惱める者に、他を凌がず、爭はざる平安和樂の生活あるを示し、噴火山上の舞踏にも比すべき不安極まる商戰場裡に、或は傷つき、或は斃れ、或は又飽くなき利慾の鬪爭に苦める者に浸かさず、浸かされず優々自適天を指さす光の事業あるを知らしむるは、我等の使命なり責務なり。宣光社同人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は、此祈願に參じ其信行を愼みて、其周圍に共鳴隨喜の人と事業とを祈り出さん事を期すべきなり。

ロ、從業員

玆に從業員と稱するは、世に所謂重役以下一般從業員を總括したるものなり。經營の掌に當る人は勿論、幹部も懺悔奉仕の人たるべし。一般從業員も亦懺悔奉仕の人のみにて充たさるゝを得ば幸なれども、事業の種類によつては、多數の從業員を要すべく、共鳴者をも參加せしめざるを得ざる場合起るべし。又事業の性質上專門家の助力を仰ぐ必要あり、同人以外の人を囑託する場合もあるべし。又練達の士を顧問として委囑する場合もあるべし。何れにするも、宣光社事業に參與するものは、一燈園宣光社の信條に反對の意志を表明せざるものたるべし。是光の事業に參加する者の最低限度の資格なり。奉仕者が、同人間並に同人以外の人に對する態度等に就ては、拙稿「宣光社の概要」に詳述したれば玆に述べず。

ハ、從業員に對する供養

懺悔奉仕の生活は光に許されて生きる生活なり。されば世間普通の意味に於ける給料報酬を受けずと雖、許されたる者は供養を受くるを得。宣光社の當番たるものは光の名によつて、各人の必要に應じて供養すべし。奉仕者は光に感謝して、之を受くべきものとす。供養を分受すと雖、皆是光のものなり。已れ之を預るのみ、濫りに使用すべからず、奉仕者ならざる一般從業員に對しては世間普通の給料工賃等を支拂ふものとす。

現今に於ては、與ふるもの受くるもの双方とも、權利義務の念か、否らざれば奪ひあひの心に之をなす。是戰ひ絕えず、爭ひ盡きざる所以なり。宣光社にては、與ふるものも、受くるものも、共に光に感謝して授受す。例ひ供養の額少くとも、授受者双方の生活を淨化する力あり。

ニ、宣光社同人心得

一、宣光社同人は懺悔奉仕の體驗者にして、已れは專心宣光社の事業に奉仕し、其家族も亦光に養はれ又養はれん事を祈願するものなるべし。

二、宣光社同人は(審く勿れ)又は(自分が悪い)等の戒法を嚴守すべきも、商戰場裡に於ては、浸かさず浸かされず常に殿戰すべし。

三、宣光社同人は餘暇あらば十字街道に托鉢して、心の染着を脫落し、學を修め方便智を磨き、常に丹田を練

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つて定力を養ひ、俗諦成就の才幹を養ふべし。

事業剰餘金の處分

宣光社産業の利潤は凡て光のものなり。何人と雖私すべからず。各種の産業部門に收得せる利潤は産業部基金社會事業部基金(即財團法人宣光社基金)一燈園宣光社同人供養基金に配分して各積立て置き、夫れ〴〵定められたる用途に使用するものとす。宣光社産業部基金は、光の事業擴張の爲めに使用さるべく、社會事業基金は其利子其他の收入によりて、學校病院細民救濟等に關する事業を經營せんとす。但世間普通の慈善救濟事業と異り。物質的の救濟策を講ずるのみならず、菩提心を托鉢して物心一如の救濟を試みんとす。一燈園宣光社同人供養基金は、化城又は光に還らんとの祈りを持てる人々の生計不足を供養し、或は又之を配給して、光に歸らん事を祈る場合に使用せんとす。之を要するに天華香洞の祈願たる

通願、皆倶成就大圓覺、別願、根本眞平和根本の爲めに使用さるべし。

第二宣光社産業

事業の目的

第一宣光社産業と異る所なし。

事業資本

光に献げられたる淨財を中心として、宣光社に隨喜せる資本(以下準淨財と呼ぶ)之に賛加せるものなり。

事業と其管財人

此産業の眞の持主は光にして、其管財人卽實社會に於ける持主は、自然人又は法人たるは、第一宣光社産業に於けると異ならず。一定の事業に於て、淨財よりも準淨財が多額に投資せられたる場合、其管財人を如何にすべきか。原則としては、第一宣光社に於けるが如く、懺悔奉仕の人を選任するを可とするも、準淨財の代表者を併せ選任せざるべからざる場合も生ずべし。かゝる場合は個人企業に於ては、何れか其一方を選ぶ可く、組合組織に於ては、宣光社と準淨財團各々の持分の割合に應じ、夫々若干の代表者を選任するを可とせん。準淨財は宣光社の趣旨に賛同して、其事業に參加したるものなれば、大體に於て、宣光社同人の經營振りを信頼すべきは勿論なれども、眞に宣光社の理想を實現せんと欲せば、個人組合何れの組織に於ても、宣光社に於て、資本の過半數

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を保有するにあらざれば、其實行困難なるべし。

事業の選擇

イ、經營方針

第一宣光社產業の項に於て述べたる所を理想として進むものとす。

ロ、從業員

經營主腦者は勿論一般從業員に於ても、懺悔奉仕の人多ければ多き程可なるも、經營者側に於ても、準淨財の代表者を參加せしむる場合あるべく、又一般從業員に於ても、懺悔奉仕の人不足し、或は又用務を辨じ得ざる場合もあるべし。何れにするも、なるべく多數に、懺悔奉仕の人を參加せしむるを可とす。懺悔奉仕者は、日夜其行持を愼み、宣光社に從事する凡ての人をして、其祈願に參ずるやう感化せしむべきものとす。

ハ、從業員に對する供養

宣光社の當番は、光の名よつて奉仕者の人格に應じて其供養額を査定し、之を各自の燈影淨財として保管し必要に應じて供養すべし、同人以外の人に對しては、一般產業界の慣習により給料又は工賃を支給す。宣光社同人は、同人の生活の意義ある事を事實に於て宣揚し、同人外の人をして、一日も早く祈願を同じうするやう祈念すべきなり。

ニ、宣光社同人心得

宣光社同人は一燈園の淸規宣光社の心得を遵守すべきは勿論、同人外の人も之を實行するに到るやう祈念すべきなり。

事業剩餘金の處分

剩餘の處分方法は、大體に於て一般產業界の例に則るべく、利益配當も（但銀行利子の程度に止む）差支なしと雖、必らず純益の一部を割いて光的積立となすべし。光的積立とは、光の事業の爲めに積立つるものなり。かくて、一般企業と大差なきが如く、具眼者にあらざれば之を識別し得ざるべし。されど宣光社の投ぜる資本は、自ら光明を放つべし。卽一般企業に於ては、其配當金は所謂資本家の手に入り、多くは世道人心を害する底の消費財となるべきも、宣光社の受くる配當は、光的目的の爲めに使用され世を益する事大なるべし。（茲に光的と云ふは世にありふれたる慈善救濟と云ふが如きものにあらず）準淨財も亦、宣光社の理想に贊同し光の事業に參加せるものにして、一般投資者の如く、必らずしも其配當

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を豫期するものにあらされば、事業の淨化に伴ひ、其受くる配當も自ら淨化され光的配當と化すべし。

第三宣光社産業

第三宣光社産業の意義

第三宣光社産業とは、普通の營利事業に宣光社の理想をとりいれたるものなり。一般營利事業を宣光社式經營となすことを名づけて光化と呼ぶ。然らば光化の方法如何、又光化の影響如何。西田天香氏の語を借りて其大要を説かん。「惠まれたる宿舍につどうて光に祈りを捧ぐ。第一の幸福と喜びに充ちて仕事に行く。仕事の結果が光の爲めになることによりて、意義がある。働きが其儘法樂で、藝術で又祈禱である。衣食はなくてならぬものは與へられる。餘りのものは光よりの預りものなり。此働き人は光の子なり。一つの場所を預り、纒つた仕事を擔任す。仕事につやあり、能率ます。此仕事の仕振りは、光の流れなり。已れ樂し、人また樂し。之を看做うて爲すもの亦樂し。これより生ずる物質的利益は、光に供ふべし。會社にあると株主にあると勞働者にあるとは、同じこと、光のものとして保管するなり。此小事實によ

りて全般を推す。他の人之に倣へば、その人幸福にして、其利益また多し。或は會社の積立となり、また株主の光財となり又は勞働者の光財となりても、結局は光化の爲めの利益なり。之を各人の私財にせずに保管するとき、私慾の爲めの爭奪の對象とはならぬはずなり。正しき事には用ひ、貧しき人には分ち、義の爲めには學ぶべきものなればなり。かくするとき會社の人格高まり、製品も精選され、信用も厚く、販路も亦一種の權威を有するに到るべし。かゝる仕事をなすは名譽なり。之を押し及ぼせば、株主の家庭に及び、株主の商事に及び、又使用人に及び、結局利を中心として、もだゆるの愚なるを知るべし」

普通事業の持主又は經營者が其事業をして單なる金儲のみならず、更に意義あるものとなさんと欲して、一燈園の佛子の托鉢を乞ひ、漸次其事業を光化し、聖なる事業となすときは、其事業と事業關係者が無上利益を得べき事は、之にてほゞ了解せらるべし。以下少しく光化策に就て述べんとす。

光化策

第一策、惠まれたる場所を道場として、園の同人うち

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つどひ光に祈りを捧げ、工場寄宿舍或は社宅等に集團して又は分散して托鉢するにあり。

此方法は何等組織なく、統一なく、只經營組織の中に横に入り込みて下座奉仕の信行を織り込むのみなれども佛子の祈り强ければ、相當の光化力を有するものなり。されど複雜なる營利事業の淨化は、之のみにては中々困難なり。

第二策、宣光社同人は經營に參加し卽經營組織の中に縱に入り込み、一燈園同人は横に入りて下座奉仕し、兩者相提携して光化を祈念す。宣光社同人は主に精神的勞務に、一燈園同人は肉體的勞働に服す。其行持は第一宣光社産業に就いて述べたる所と異ならず。而して此方策にも次ぎの二種の行き方あり。

甲、一工場一經營の管理組織の一部として、光化係を設くるもの

其一つなり。是は普通の經營に於ける職工幸福增進係又は訓育係に相當するものにして、其擔當事務の主なるもの左の如し。

一、托鉢、講演又は文書等により下座奉仕の精神を鼓吹すること。

二、從業員の人事上の相談に應ずる事

三、從業員中の傷病者貧困者等を慰問し、救濟の必要ありと認めたるものは當該係へ通達する事

四、從業員の精神修養並に幸福增進に關する施設は勿論其他の經營上の諸問題について互敬互讓の見地より意見を述ぶる事

普通の人事係の一部に過ぎざるが如しと雖、其係員が懺悔奉仕者にして、其執務の中心が托鉢に存する點に於て相異あり。此方法は奉仕者其人を得ば、相當の效果を擧げ得べしと雖、光化に從事する係員の地位が、經營者側の代辯者たるの立場にあるを以て、充分の光化力を發揮する能はざるの怨あり。

乙、一工場一經營內に光化係を置くも、之を會社より獨立せる財團の所屬管理に委ぬるもの

その二なり。一般事務の執行上よりせば、一經營の管理組織と一分科として光化係を設置する事便宜なりと雖光化の能率より云へば、光化に從事するものが、全く雇主被傭者より獨立せる第三者の地位に居る肝要なり。是會社より獨立せる一財團を設立し、之を光化事業の機關とし、其事業の一つとして、所定經營の光化係を管理せ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

しむる仕組を採るを可とする所以なり。今光化係の相當事務の主なるものを擧ぐれば左の如し。

一、一工場一經營內各分課に分散し又は一分課を預りて作務に從事し又社宅或は工手の家庭等に托鉢す。

二、講演又は文書等によりて懺悔奉仕の精神を鼓吹する事。

三、工業從業者中の傷病者貧困者を慰問し、精神物質兩方面より救濟の法を講ず。

四、金融相談所を設け其相談に應じ、兼ねて生計の確立に就いて助力する事。

五、人事相談所を設け一經營又は工場內外に於ける不平煩惱の解決其他諸般の問題につき奉仕する事。

六、從業員の修養並に幸福增進に關する施設にして、當係りの主管を可とするもの。

七、互敬互讓の見地より、經營上の諸問題につき意見を開陳する事。

卽之なり。光化の掌に當る奉仕者は、現代社會組織には幾多の缺陷あるを銘記し、勞資何れにも偏せず、慈悲、愛の立場に立つて懺悔奉仕し、苟くも勞役者の向上心獨立心をいしくせしむるが如き言行あるべからず。經營者も亦眞に道の前に平伏して、自ら下座を行じ、苟くも奉仕者を利用して、勞役者に過重の勞役を强ゆるが如き行動に出づべからず。經營者が打算的の考を捨てざる間は光化はなか〳〵覺束なかるべく、之を超越するとき光化の效果顯著なるべし。（一九二三、六、二四）

樹下石上抄（一）

紫雲蓮車

くたびれて宿りせりこゝは是れ樹下石上か父の家かも
ありがたし樹下石下とうつし身の一夜を寢れば家にしありけり
こゝにまた家はありたり吾がいのち天幸く長く天垂らしたり
星のゐる夜空は深くしづまりて吾がいのちの長く天垂らしたり
許されて生きる生命となりにけり天つ丘びに宿りせりけり

×

夏の夜は螢亂れて光りつゝ隱ろいにつゝ更だちたるかも
土手の上の草の繁葉に見えみ見えずみ螢亂れて光りたるかも

×

ほと〳〵に疲れたるかと足曳の山躑躅花は匂ひたる見ゆ
おほよその高山嶺路は眼の下に見えてかなしき峠を越ゆる
わびしくも邊土異邦のこゝちされ山深くして日の暮れ行けば
此處にして京都はいづこ疊なはる山幾重わが越えて來にけり
山深く旅にしあれば此の降れる雨は早くも梅雨かと嘆く
たゝなはる群山嶺路はこと〴〵く梅雨にしあればかくれたるかも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

Y・K・Kの會員と語る

松下吉衞

K。よくいらつしあいました。ずゐぶん、おあひしませんでしたね。一度お目にかゝつてお禮を申さねば、何だか借り物をしてゐるやうな氣がしてなりませんでした。

Y。どういたしまして。何のお役にも立ちませんで。……この間はわざ〳〵お訪ねくださつたさうで、ほんとに失禮申しました。社の用で一週間ばかり關西の方へまゐつてゐたものですから。

K。さうでしたか？ 文字通りに東奔西走なすつていらつしあるのですね。新たに創めるつてことは、何にしろ大へんなものです。それにお仕事がお仕事だけに、丸きり商賣氣になりきることは、勿論出來ますまいしY。ほんとうです。自分の口から申しては少しへんでございますが、社の會計の模様を知らないではなし、發起人の片割にもなつてをりますので、創めてから、もう半年になりますが、カー フェーァすらいたゞいてをらないくらゐですの。

K。それは極端ですね。

Y。でも覺悟の前ですわ。……しかし、大分無理が出來てきてをりましてね。あれだけの運動でも殆んど一トロがかりなんですの。××××の編輯と××會の研究と×××とでせう、やつぱり毎日つぶれてしまひますわ。弟が×××××へ出勤てゐてくれるものですから、どうかかうかやりくつてはきてゐますが、社を創めるについて、私は×××の英語教師をおことわりしましたので收入はヅーットありませんし、どうにか方法を立てなければと考へてはをりますの。

K。飜譯でもなさつては？ なんなら御紹介も出來ると思ひます。

Y。ありがたう御座います。D社からEさんと共譯でヂ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

アック・ロンドンの××××を出すことには話がとどいてゐるのですが、體の弱いためか一日出て歩きますと夜分はへとへとに疲れて机に向ふ元氣など全くなくなつてしまひますのよ。それに、出版すからにはよい加減なものでは氣がすまないし、譯文を練るとなりますと、筆はなかなか進みませんから一枚六七十錢の稿料をいたゞいたのでは、やつていけつこはありませんわ。

K。ほんとうに問題ですね。社會をこのまゝ肯定して何なり職業を求めて行くのなら、お互ひ、さう大して生活上困るといふこともなからうと思ひますが、今の運動から直接糧を得ようとするのは、少しおしが太いかも知れません。×××の存在を無みしようとするはたらきに對して如何におめでたい×××でも報酬を出す筈はありますまいし……一番望ましいのは、プロレタリアが目ざめてまぢめな運動者を支へてくれることでせうが、××の現狀では、そんなこと、とても覺束ないにきまつてゐます。まあ、理解あるプティブルヂョアーがせめてもの懺悔心に供養してくれるのを待つとしませうか、ハ、ア……。ほんとうに、生活のことを考へると暗くされてしまひますね！

Y。あのSさん——この間×××でお會ひくだすつた——あんな方ですら、中々やつて行きにくいと見えて、Hさんや有島さんからなど月々おくられてゐるんださうですよ。

K。あの節は御紹介くだすつてありがたうございました……×××社の資金も有島さんから主に出てゐるやうにきいてゐましたが。

Y。とんだ人に死なれてしまひましたわね。

K。ほんとに。

Y。相手の女を學校のときから可なり知つてゐるだけに私は惜しい氣がしてなりませんわ。どうしてあんなことになられたのでせうね？

K。自分自身、愛慾についてまだまだ卒業ずみになつてゐないのですから、批評がましい言葉づかひは愼しみたく思ひます。それに、口では何のかのと言つても、死ぬるほど一つの事に——よしあしは兎に角として——でたらめでなく打ちこめる人は、さうは居りませんもの。……遺書によつて大體の氣持は想像されないこともありませんが、あゝいふつきつめて物事を考へる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たちの方にとつて、資本主義の爛熟期になりかけた今の社會は、餘り問題が紛糾しすぎてゐて堪へきれなかつたのではありますまいか？　母を失つた三兒に對する父としての責任、社會の組織惡を痛感しながらブルヂョアーとしての處し方、つきつめて考へれば、純眞な性情の人ほど、頭がこんがらかつてしまふでせう。さうして、森嚴に自己檢討をする人なら、誰しも自分の『無力』と『不德』とに心をいためないものはありますまいから、父として社會人として自分に何が出來よう斯うした、し來たりな生活を今後十年廿年續けたとてそれが何になる、結局同じことではないか、といふやうにナイヒリスティックな思想に導かれないものでもないでせう。

Y。さうでせうね。

K。二三ケ月こつちの『泉』には殊に、有島さんのかうした傾向が、ハッキリ出てゐましたよ。誰かも新聞でこの點を指摘してゐたやうですね。いろ〳〵な事情を綜合して見ますのに、有島さんの思想の轉機は、この一月前後ではなかつたでせうか？　私に下さつた手紙からもさう思へるのです。こんなお手紙をくださつたこともありますよ。お目にかけませう。

『御葉書並に御高著を落手致すと共に兩者を拜見しました。而して「現代の經濟生活と懺悔奉仕の道」を非常の感興を以て讀了致しました。かういふ立派なものが出てゐれば私の書いたものなどは無くても宜しいのだつたと思ひます。よいものを讀ませて下さつて有難う御座いました。私も現代に私一箇の生活を處して行く道としては無產者の生活により他から惠まれて行く態度を持したいと考へてゐますが、これのみを以て來るべき革命を非難することが出來ないのみならず、それに無關係であることとさへ許されざることだと思ふものですから、あのやうな事を申した次第です。あなたも亦無產者階級の「×による××」を肯定なさる以上、乞食奉仕の生活にのみ沒頭してそこに安住を得られることは出來ぬと私は考へますが如何で御座いますか。

兎に角××園の信徒中にあなたを得た事は、單に同園の喜びばかりではないと思ひます。私のやうな門外漢にして事理に暗いものまで暗示を受くる事の多かつたのを感謝せねばなりません　不取敢右御禮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の心まで』

これは去年の十一月上旬の日附ですが、ヅーツト『光』は私から差上げてゐました。その都度御返事がありましたが今年の一月中旬くださつた端書がこれです、

『光を只今拜見しました。あなたのやうな御氣持ちで斯道の爲めに働いて下さる人を有するのは力强いことだと考へます。自分の道が徹底してゐないのを恥ぢます。』

自分の可なり打算的であり臆病者であることをちつとは知つてゐる私は、有島さんのやうな人からこんなにいはれたりすると、ほんとに參つてしまつて返す言葉もないやうに感じ〴〵しました。ところが、この二三ケ月ぷつつりおたよりが絶えたので、どうしたことかと不審に思つてゐたのです、實は。……

秋子といふ方との關係で一層ナイヒリステイツクになられたのか、よりナイヒリステイクになられたのであゝしたことが出來したのか、有島さん自身にも恐らくさうハツキリとはおわかりでなかつたと思ひますがそれは兎に角として、何ものゝ權威をも否定し去つたナイヒリストの心魂をさへ『惜しみなく奪』つて生命がけなスパークの散るやうな積極的行動をとらせたものが戀であつた事實には變りはありますまい。有島さんの遺書に『歡喜のいたゞきにある』とか『死がかくも容易であるとは思はなかつた』とかいふ意味の文字が見えたやうですが、幻滅に徹したナイヒリストは戀でゞもなければなか〳〵『歡喜のいたゞきにあつて』『容易く死』ねなどはしませんでせう。

Y。外的の壓迫からでないつてことも遺書にかいてありますけれど、ほんとうにさうでしたかしら？

K。それは、世の常の戀でないといふ意味で、有島さんとすれば人一倍、身も世もないくらゐに惱まれたことと思ひますが、死そのものゝ決行は、それとは直接の關係はなかつたのではありますまいか？　やはりナイヒリストの必至的な運命だつたのでせう。たゞあゝした死に方を選ばれたのには秋子さんとやらの働きかけが力あつたことゝ考へられますがね。

Y。さう見るのが正しいのでせう。

K。まさか有島さんともあらう人が入獄ぐらゐにおぢ氣をおこして死の國にレフユーヂを求めたとは想像されませんからね。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

Y。方向は少しちがひますが、監獄なら私達もこれで卒業生ですわ。

K。修業八ヶ月の名譽ある學士さまですか？

Y。えゝ。私達が產まれたら、もうかういふ不合理きはまる社會組織が、ちやんと出來あがつてゐたんですもの。發言權も何も與へられてゐない私達にどうすることも出來ないではありませんか？　伊藤博文の『憲法義解』に×××××××××××、所謂××の××の××には可なりの×××を×××ゐることは××出來ると思ひますわ。むづかしい理窟はぬきにして私達の何等關知しない××が私達の上に×××××を××ことが×××とするなら、萬人の批評に堪へる目的のために社會組織の×××××××するにあたつて、如何なる場合でも如何なる形に於ても×の××が許されないつてことは少なくとも片務的だと思ひますわ。

　今更けば〳〵しい旗あげをする氣もしませんが、伏せた極ぢみな形で資本主義の根幹に喰ひ入つて二度と立つことが出來なくしてしまふ行き方はないものでせうか？

K。さう……一燈園の托鉢も實はそれである筈なのですが。

Y。私もかね〳〵一燈園の方には敬意も拂ひ、將來あれがどういふやうに展びて行くか、少なからぬ興味をもつて眺めてゐるのですが、今までのやうに、托鉢者が一人々々求められるまゝに何の連絡もなく家庭の雜役を甲の家から乙の家と轉々しあるくといふ形だけでは自分一箇の煩惱をとゝのへる修行としては兎に角、組織された社會力である資本主義を崩壞さす上に何程の役に立つものか、ずゐぶん覺束ない話ではありませんこと？　托鉢者は、たしかに、一つの燈火でせう。それは私も信じますが、何しろ暴風雨の荒れ狂つてゐる時代ですから、一つ〳〵の燈火がはなれ〳〵にとぼつてゐるのでは、どうしても吹きけされがちぢやないでせうか？　とぼしては消され、消されては又とぼしゝてゐるのでは、たとひ何千燈何萬燈あつても、つひに世を照らす光となることは出來ないかと思ひますわ。

K。そんな氣もしますね。年中、緊張し切つて托鉢してゐられゝば、同じ一つの燈火でもちつとやそつとの雨

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

風に消されるやうなこともないのでせうが、私等は、つひ、だれてしまつて事實さういふわけにいきませんもの、すぐれた人は兎に角。

Y。托鉢は出家道ではないんでせうか？

K。出家の姿をとつた方があたり前では行じ易いことは事實です。家庭ぐるみの托鉢がハッキリ行（ぎやう）じきれてゐる例といふのは極稀有のやうですから。私などは、とても、いけません、何とか出直さなくつちや。このままでは、ほんとに皆さんにすまないんですが、さて新しい第一歩をどう踏み出してよいか、考へるとおいそれとはきめられませんでしてね。

Y。日本の現狀に適合した非暴力的（ノンヴアイオレント）抵抗（レヂスタンス）について何かお考はなくつて？

K。私が今問題にしてゐるのは、つまり、そのことなんですが、文書の宣傳や口舌の說敎では、勿論、微溫的すぎますし、少しでも資本主義の厄介にならなければ出來ないやうな權威のない仕事なら今更したくはありませんし、さうかといつて生命のない形だけの模倣は尙のこと出來ないししますので、實は私もこの頃ぢりぢりしてゐるやうな始末です。

Y。Oさんなどは、これについてどうお考へになつてゐますのでせう？

K。社會問題のおこりは要するに我執に外ならないといふ見地から、我執斷滅のいのりより別段特殊な對策はないやうな御意見らしいです。

Y。ブルヂョアーが托鉢の功德によつて階級として悔い改めて我執を捨てるつてことがあり得ませうか？ ブルヂョアヂーが、ブルヂョアヂーとして存續する限り、組織惡は永久に滅びますまいし、私は、それだけでは、どうもものたりませんわ。

K。あなたや私などは餘りにリアリスティクすぎるのかも知れませんね。

Y。さうでせうか？ 現實的だか理想的だか知りませんけど、目前に迫つてゐる一番重大な問題にこの體をなげつけて行くといふ外に私の生き方はないのですから仕方がありませんわ。

K。……あなた方の××會の××の研究で聞かせていただくことがありましたら、どうぞ。

Y。さうですね、別段。……さう〳〵お願するのを忘れてました。此度、×××××でやられた方々ね、それ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は、ひどいんですつて。×××は一切許されませんしそれに大へん困つてゐる家族の方もおありなさうでして、××會でも防援會の仕事を手傳ふことになりましたの。なるなら會員になつてくださらない？　十圓最初出していたゞいて、それからは年々三圓なんですつて。

K。Sさんに對する敬意からだけでも、入會しないではすまないわけですね。今日は持ち合はせてをりますから、今申込みませう。

Y。あなたからお金をいたゞくのは、何だか變な氣持がしますわ。惡いことといひ出しましたのね。御迷惑すぎはしないかしら？

K。大丈夫です、無理はしませんから。

Y。ではいたゞいておきますわ。

K。その電車の回數券のやうなものは何ですか？

Y。これ？　防援券よ。一枚五錢ですの。

K。一册で幾枚あるんです？

Y。たしか四十枚だつたでせう。

K。それも一册お引受いたしませうか。どれお見せください。何だか少し出來がまづいちやありませんか？裏にのりでもひいて何とかモ少し意匠をこらしてゞすね……手紙の封緘などにもつかへるやうにしてはどうでせう。

Y。私もそんな氣がしてゐましたわ。係りの方によくさう申して見ませう。

K。しかし、いゝことが始まつてよかつたですね。今までは、あんまりなんにもなさ過ぎましたもの。不幸のとき扶けあふまでにならなくては、コムラッド呼ばりも協同戰線も空虚ですからね。

Y。全くさうよ。主義とか意見とかについての議論は要領を得るまでしあふとしても、お互に强敵を前に控へるコムラッドであることだけは忘れないやうにしませんではね。どうも日本人は協同といふことは不得手のやうな氣がしますわ。狹量なんでせうか、ひとりよがりなんでせうか？

K。他人（ひと）ごとではありません、さういはれると、私など修養しなくてはならないとつくぐ考へますよ。

Y。ネルソンでしたか、トラフアーガー海戰の時、幕僚間に策戰計畫について意見の相違があつて、敵艦隊と今にもぶつからうといふ間際になつても、互に赤らみ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あつて議論を上下してやめやうとしないのを、傍でヂーッと一言もいはずに聞いてましたが、急かに聲を勵まして「敵が見えた。もう議論の時ぢやない。」つて、はるかむかうの空に幾筋かの煙がほのかに見えるのを指さしたので、あゝもかうもなく協力一致して開戰準備にとりかゝつたといふ話があるさうですが、私達にしても、資本主義といふ共同の敵を目のあたりに控へて徒らな研究論議のために時と力を浪費したり少しのことで仲間割れしたりしてゐては、ほんとに仕様がないと思ひますわ。

K。みんな裸人になつてぶつかりあへればいゝんでせうがね。三は三、五は五、多角形は多角形なりで。

Y。聖道への歩みはむづかしいにちがひありませんが、單に「ありのまゝ」になるだけでも決して容易ではないと思ひますわ。「ありのまゝ」なつもりで、もう「ありのまゝ」ぶつてますもの。

K。全くです。聖ぶるのは醜いにちがひありませんが、「ありのまゝ」ぶつてパッ〳〵とやられるのも、ずゐぶん、あてられますからね。

Y。裸人といへば、Cさんのやうな方をいふのでせうね

K。あの方は生れつきあゝいふのかも知れませんよ。もういゝ年におなりでせうに、まるで駄々つ兒みたやうなところがあるではありませんか。それがちつともわざとらしくなくつて、あの重々しいどこかかうさびしみのある平素の態度と不調和にならないのですから妙ですね。

Y。この間おあひしたとき、何か感ずるところでもおありだつたと見えて、切りに囚はれた儒教思想の日本民族に及ぼした惡影響を痛論されてゐました。「善」とか「惡」とかさう容易にきめられるはずのものでないのに日本人はすぐにきめたがる、人のことを「善人」か「惡人」かにきめてしまはなければ承知しない民族だこんな民族からは、ほんものも偉大なるものも産れつこはないつて憤慨しておいでゞしたわ。

K。そんなことを痛論されるCさんを想ふと、「洋服を着けた老子」といつたやうな感じがしはしませんか？

Y。「洋服を着けた老子」！ほんとですね。早速Cさんあてに通告しませうよ。Cさんどんな顔してお笑ひになるか……おもしろいわ、はがきをくださいな。

K。あなたも相變らず茶目ですね。まあ、冷たいものでもすゝりながらにしませうか。ずゐぶんしやべり續けましたね。

Y。お仕事の邪魔をしはしませんこと？

K。いゝえ、かまひません。ほんとに久しぶりですものごゆつくりなすつていつて下さい。―一二・七・二〇―

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光の友へ一つの申出で

——業因斷滅の根本的な實行方法について——

谷口雅春

一

わたしが玆にまうし出ようとすることは一見きはめて些細な、とるに足らぬ枝葉の問題だと考へる人があるかも知れない。しかしこゝに申出でようとする問題はその外見がきはめてフリヴォラスなものに見えやうとも、人間が生きる上について、極めて根本的な——これこそわれ〳〵の生活の基礎となるべき程な——嚴肅な問題なのである。

わたしがさう云ふのは人間が如何なる食物をとつて好いかと云ふことに關してゞある。わたしは人間に食物として、他の生き物がめぐまれてゐる——と云ふ考へ方さへ謙遜でないと云ふことを『聖道へ』の中でくはしく論じた。わたしはそのなかで、生き物を食べねば生きられねやうに出來てゐる人間にとつて、許され得るもつとも謙遜な態度は、生きものを食べることの惡を、惡として正直に承認することにある。めぐまれてゐると云ふ考へ方は、儲けると云ふ考へ方よりも謙遜ではあるけれども、めぐまれてゐるものは、受けて好いと考へられがちである。それが受けて好い——と云ふ程度に考へられるだけならばまだ好いのだけれども、遠慮なく受けなくては與へたものに對してすまない、與へられたものを出來るだけ多く肯定することが本道である——と云ふ程度に思索が進んで來ると自分は「めぐまれる」と云ふ考へ方から出發して或る人に於ては外れて行かうとする誤れる方向を思はずにはゐられないから云ふ意味のことを論じたと思ふ。

食べ物は神からめぐまれてゐる——と云ふ考への上に立つても、必ずしもすべての人が、めぐまれた一切を能ふかぎり豊かに肯定することをもつて神の意志をおこなふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ものだと、傲慢に安住した氣持になるにはきまつてゐない。恐らく一燈園の同人たちの多くの如きはこの信念の上にたちながらしかもめぐまれものなるが故に貪り過ぎてはならないと云ふ最も謙遜なる態度を持してゐられる方々であらう。

しかし、めぐまれ物を受けると云ふ考へ方に立つ態度はこの謙遜な態度だけにきまつてゐないのを自分は遺憾に思はずにはゐられない。食べ物がめぐまれものだと云ふ思想から出發しても二個のまるきり反對な結論に到着するものなのである。(一)われ〳〵が罪業深くして斷滅し得ぬ食慾（その他の慾望でも同じことだけれどもこゝには取扱ふ問題の範圍を縮めておきたいために食慾のみに限る）に捉へられつゝ餓鬼道の苦しみに陷つてゐることを憐れみ給ひて『救ひの把持者』からある時期のあひだ生き物をとつて食ふと云ふことが、已むを得ずゆるされてをり、とつて食はれた生き物も、食はれることによつて逆緣ながら因緣かむすばれてとも〳〵に救はれの道に入る——と云ふ考へ方をとるならば、その惠まれものを已むを得ずゆるされたるものとして、遠慮がちに羞ぢつゝ受けるやうな謙遜に到着することが出來るのである(二)人は生き物をとつて食はねば生活が出來ないやうに造られてゐる、すなはち神が人間に食慾を與へたのである與へられたものは生かさないことは神の御旨を生かさないことである。すなはち與へられたもの(食慾)は出來るだけ豐かに生かすことが本道である——と云ふ考へ方に落ちて行くならば、與へられたもの、若しくは惠まれものを羞ぢつゝ受けるやうな謙遜に到着する事は出ない。武者小路氏でも倉田氏でも、慾望そのものを生かすことを善しと認めてゐる點に於てこの(二)の部類に屬する。

(一)の態度をとる人と(二)の態度をとる人とは、同じく「食物」はめぐまれてゐる。若しくは與へられてゐると考へてからのことであるから、ぞんざいに考へれば、同じき世界觀もしくは人生觀を把持してゐるやうにおもはれるかも知れないが、その實、この兩者の把持する世界觀及び人生觀はまるきり相違するのである。前者は食慾を「煩惱」——解脫し遠離せらるべき渇慾——と觀じる。それは本來遠離さるべきものであるけれども、遠離に到達するまで假りに食物をゆるされめぐまれるのである。後者は「食慾」を造り主の世界設計の構圖中の一つとして與へられたと認める。かるが故に出來るだけ豐富に味ふ

こと、食物にも出來るだけゆたかに味と匂ひと色彩とをそへることが造り主の御旨に忠實なる所以とならざるを得ないのである。

二

自分は人間の正しき歩み方について眞面目に考へずにはゐられない『光』の友たちに申し出でたいことは、貴方たちが食物をめぐまれものとして受けるならば、この等の二つの態度のうちどちらの態度を持してゐられるかと云ふことを偽りなく自己の衷に直視せられんことを希望せざるを得ないと云ふことである。はつきりと食慾に對する態度をきめてかゝるとき、食慾とおなじく吾々のうちに根を張つてゐる色慾をはじめその他の慾望に對するわれ〳〵の態度も次第にはつきりして來るだらうと思ふ。

自分は、さうして反省せられた『光』の友たちが、「食慾」を解脱し遠離すべき煩惱の一種と觀ぜられる人たちと、それを造り主から與へられた出來るだけゆたかにのさばらすことが御旨にかなふ如き神の意圖の一つと觀ぜられる人たちと二樣にわかれるだらうことを想像する。さうして自分は前者に屬する人たちには同感が出來るが後者に屬する人たちには同感が出來なことをはつきりさせて置きたい。

人間が生き物をとつて食はねば生存出來ないことは、正しき生存の道を選びたい人達にとつて殆ど致命的な禍害である。人間を造り主の被造物として觀じられる人たちは、人間の生活を造り主の計畫のうちに見出さねばならない。これを肯定するとき、造り主が、生き物をとつて食ふやうに人間を計畫したならば、人間は生き物をとつて食ふことは、造り主の計畫を遂行する善事とみとめなくてはならない。これを是認するとき一切の弱肉强食を是認しなくてはならない。自分はかゝる造り主があるならば造り主に叛逆する。

しかし自分はこの世界を造り主の創造だとはみとめない。この世界の存在をさゝふる力は佛教的に云へば無明であると觀ぜざるを得ない。この世界は無明に因つて起りそれより繼起したる業の力によつて支へられてゐる。多くの人は、業の流轉する力を運命と觀じ、これを神視してゐる。運命は殆ど不可抗的ではあるが、それは神ではない。「運命の神」などと云ふ言葉は自分には矛盾に聞

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

える。運命とは原因結果のめぐりであつて、神聖なる神の意圖ではない。神の意圖に從ふことは善であるが、みづから惡果のめぐり來るごとき惡因を去ることをしないで、その流轉（めぐり）にきたる惡果に身をゆだねることをもつて神旨に從ふことだとするのは、救ふべからざる誤認であると云はざるを得ない。

三

人間が、生き物を殺して食はなければ渇慾の感にたへないのは、神が生類相互の殺戮をその世界創造の構圖の一つとして許したからではないと思ふ。それは恐らく劫初以來の業因の累積より來れるめぐり來る惡果であると觀ずるのが本當であらう。それが運命的に殆ど不可抗的に來るからとて、その不可抗は神聖なる意圖から來るのではなく、業因の流轉から來るのであるが故に、その不可抗に身をゆだねるよりも、その不可抗に正しき意志の力をもつて對抗することの方が正しいと云はざるを得ない。

業因流轉の根元は無智無明――ショウペンハウエル式に云へば盲目的意志――から來るのであるから、叡智ある意志とそれに伴ふ精進努力とのみが業因流轉の不可抗力を幾分でもささへることが出來るのである。少くともかゝる精進は逆にわれ〳〵を、前とは相違する他の正しき方向に押し流す原因を積むことになるに相違ない。

自分はこれらの問題に關して詳しき煩らはしき論議をかさねることを他のわたしの本にゆづらねばならない。自分は以上の信念の上に立つことを、殆どたゞ結論的にのべておいて、その精進の一形式の實行的方面について一つの申し出をなさねばならない。――自分がこの申し出を一日でも遲らせば、多くの生類が無駄に殺され、またそれを殺した多くの人類は、更に惡しき業因をかさねることによつて惡しき結果へと運命的に押しながされて行くだらう。自分はこの原稿が八月號の『光』誌に間に合はないことを惧れつゝ、取急いで筆をとる。

四

愛する『光』の友たちよ。わたしが貴方たちに申し出でたいと云ふことは、それは如何に瑣細な問題に見えやうとも、最も根本的な問題なのである。わたしははつきり云ふが、人類のうち、たゞ『光』の友だちだけでも動物を

食物にとらないと云ふ盟約をかはして、そして、その日からすぐ動物を食物にとらないことを實行したい。『光』の友だち全部がそれを實行出來ないならば、たゞ一燈園の同人からだけでもそれを實行しはじめて貰ひたいことを申し出ざるを得ない。わたしは微生物を知らず識らず殺すことをさへおそれる。しかし知らずに殺すのは已むを得ない――食べようと云ふ意志なくして、呼吸と共に微生物を吸ひ込んで、その微生物が死ぬのは氣の毒だけれどやむを得ない。そしてそれは食べようと云ふ意志がないから、人類の運命を押しながす運命流轉の著るしき業障とはならないであらう。

しかし明かに目に見える動物の肉を食ひ、骨をしはぶると云ふことは、今日の營養學上の分析的見解がどうであらうとも、その行爲は動物を共食ひせんとする意志の發現である。意志は人類の運命流轉の根本動力である。今日の營養學は、如何なる化學的分析法によらうとも、この意志を、或る結果を惹起す原因として抽出することが出來ない。そして、この根本原因に到達し得ない限り營養學上の分析的營養價値に重きをおく食餌療法は中途半端なものであり、業障の根本療法たる「共食ひせんする意志の斷滅」ほどに有效なるものと云ふことは出來ないであらう。

自分がこゝに提出せる生類愛は、焦頭爛額の急にせまつてゐる人間の社會問題の解決には、歯がたゝない迂遠な問題だと思はれる人もあるであらう。しかしこの生類愛の實行こそ、あらゆる人類が苦しんでゐる業障の運命的流轉の絆をたち切るべき唯一の方法なのである。社會の組織が變革せられ、あらゆる人類が平等に富む日が來ようとも、動物共食ひの業因を除きおかない限りは、何等かの形式で人間はそのむくいたる復讐を受けとらねばならない。人間のなやみは社會の組織惡だけだと思つてはならない。また、裕かな生活が出來ないことだけだと思つてはならない。ゆたかな生活を送るものにも、病患とか、戀愛の重複とかその他いろ／＼の悩みが業因の消滅しないかぎりはめぐり來らざるを得ない。

自分は信ずる――人間が、社會の組織惡と云ふ舞臺に立つて、互ひに相殺戮しなければならぬやうになつた根本たる原因は、人間が他の動物を平氣でとつて食つたことの因果のめぐりであると。動物をとつて食ふことに平氣なものは、みづからも又互ひにとつて食ひ、又相互に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

爭ひあはなくてはならない。報いはめぐり來らずにはゐない。その報いを避ける唯一の道は、動物をとつて食ふごとき惡しき原因を斷滅することのみである。

五

わたしの申し出では端的にいへば『光の友よ、一切の動物食をやめようではないか』と云ふことである。自分はこの申し出でを、病める、消化しやすき滋養物を特に必要とする如き人達の運命に對して冷酷に、そして懸念なしに云ふのではない。自分はかゝる病める人達に對してはなほさらに植物食を奬勵せずにはゐられない。自分は生れつき虛弱な肉體ではあるが、最近二ケ月ばかり以前から著しく胃腸を害して、毎日連續して下痢がつゞいた。自分はその頃もすでに植物食の熱心の主張者であつたが、たゞ鷄卵のみはまだ生命になつてゐないもの、それは意識が發達してゐないし、苦痛も感じないものであるから、それを食べても愛の道にかなはないものではない、その上それは自分の如き虛弱な消化力らすき人間にとつて滋養も豐富に消化吸收も容易なるものであるとして毎日少量づゝとることにした。或る醫者は卵食を、容積少く、滋養豐富、消化容易なるものとして一日二十個以上も攝取することをすゝめた。自分はその醫者の說には從はなかつたが、一日數個の鷄卵を攝取したのは事實である。又或る醫者が云ふには、貴下の胃腸は非常にただれてゐるから、纖維のあるものは一切食つてはならない、粥は半分以上糯米にし、麩、豆腐、葛湯、鯛、鰈の如き纖維のない刺戟少きものを食へば次第に下痢がとまり來ると云ふのである。三週間ほどこの方法を實行して見たけれども依然として自分の下痢はとまらなかつた。

すると或る日自分は古本屋で、高野太吉氏の「抵抗養生論」と云ふ本を見付けたので買つて來て讀んで見た。それによると一切の肉類はそれが分析上如何に營養價値が富んでゐやうとも、著しく胃腸の中で腐敗しやすきものである。特に病人にとつて唯一の消化しやすき滋養物だと考へられてゐる、卵類乳類の如きは、唯極めて强健なる胃腸の持主にのみ正常に滋養物として吸收せられるけれども、少しでも胃腸弱きものには、胃腸內に於て異常醱酵を起して、一種の毒素を生ずる、下痢はこの毒素の作用にて起るものであつて、食物の纖維の刺戟の多きためではない。それゆゑ胃腸の虛弱なるものは出來るだけ纖維多き刺戟多き食物をとらねばならぬ。刺戟多ければ胃腸の消化液の分泌も多く、消化も完全に行はれ、胃

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

腸内に腐敗毒素の發生の餘地もない。しかるに柔かき液體的食物及び動物的食物は胃腸の粘膜を刺戟させるが故に消化液の分泌も少く、從つて本當の意味に於て消化し同化し得る狀態にならない。たとひ吸收せらるゝも、それは豐富なる消化液を通して同化し得る狀態になつたものでないから、何ら眞に滋養物とはならない。それ故眞に消化しやすき、滋養物とは、一見不消化物たる如き、且つ分析上營養價少き植物食にある――かういつて、高野氏は胃腸虚弱なるものに、麥飯、牛蒡、ひじき、あらめ、澤庵漬など、植物食のうちでも最も固き纎維多きものが指定してあるのであつた。常に植物食のみをとりたく思つてゐた自分はこの高野氏の議論に共鳴した。その日から醫藥と流動食を一切廢して、麥飯の燒握り飯に澤庵その他の粗食を食ひはじめたのである。すると、一ケ月半以上つゞいて、如何なる醫藥もどうすることが出來なかつた下痢がぴたりとその翌日から止つて了つた。そして營養は卵食や魚肉食をとつてゐるときよりも一層よくなり、落ち込んでゐた上瞼も次第に肉がついて來たのである。

六

議論が枝葉にわたつたが、植物食のみによつて人間が營養狀態を完全に維持し得ないだらうと恐れる人達に對して、自分は何等おそるゝところなく植物食のみにてこの弱れる下痢せる胃腸が完全に健康に到達せる事實を報告せずにゐられなかつたのである。尚高野式抵抗養生法は、内部より纎維多き食物にて消化器を刺戟すると共に外部より毎食後十五分間胃腸のマッサーヂをして、消化液のはげしき分泌を促すことをすゝめてゐる。この方法も餘白があれば紹介したいのであるが、まるで高野式抵抗養生法の宣傳文みたいになつてしまふから、それは別の機會にゆづりたい。

結核の如き病氣も、現在では殆どその特效藥と云つてはなく、營養をよくするほかに何ら療法といつてはないものらしい。しかも結核患者の胃腸は非常によわつてゐる。從つて醫者のすゝめる食餌は、卵食、肉食、乳食の如き動物食が多いであらう。しかし、弱れる結核患者の胃腸がこの濃厚なる滋養食を完全に消化し同化することは恐らく不可能である。從つてかゝる食餌の運用は胃腸に毒素を發生し、人をして自己中毒狀態に陷らしめ、自己中毒狀態は頭腦の正しき思想をかきみだし、やがて人を放逸なる思想と生活とに導かずにはおかないのである自分はピュリタン的に敬虔なる『愛と認識との出發』時代の倉田氏が自由戀愛を容認せる如き『靜思』『轉身』時代の倉田氏に轉ぜられたのは、恐らく、氏の攝取せられた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

る食餌の變化が著しき影響を氏の思想に與へた結果だと思はずにはゐられない。氏がもつとも純潔な敬虔な思想を發表せられたのは、『愛と認識との出發』の後半部すなはち氏が一燈園の生活にふれられた一二年間、すなはち氏が比較的淡泊なる植物食に偏したる粗食に甘じてゐられた時代ではあるまいか。

七

かくの如く、自分の觀察する處によれば、食物は、自己中毒なる生理的過程に於て、人の思想を掻きみだしてその正しき思想を失はしめ、キリスト敎的なる思想からギリシヤ主義的なる思想へ、殘忍を認容し得ざる如き思想から、殘忍を肯定するが如き思想へと導くものであるしかし、これを一層根本的に云へば、生理的過程の如きは業の流轉の一相にすぎないのであつて、實は、生きものをとつて食ふと云ふ殘忍なる所業(即ち肉食)は、その所業を敢て容認する意志の力を原動力として、身みづからの上にその惡果を流轉し來るのである。「動物共食ひ」をゆるすごとき意志は、その儘法界に何の影響をのこさないで消え行くべきものではない。それは相を變じて、いろ〳〵の形に於て、みづからに報い來らさるを得ない階級の爭鬪も戀愛の相奪も、すべて「動物相食ひ、相犯す」ことを許すごとき意志の力の變形である。自分は、それ故にかくの如き人間の不幸なる運命流轉の根本動力を斷ちきるために、全人類に對して動物共食ひの殘忍を禁絕することをすゝめざるを得ない。その第一歩としてまづ『光』の友だちに對してこれを叫ばずにゐられない。そして特に、一燈園の同人の如き、人類の惱みを根本的に救濟すべき深き祈りの生活に入れる人たちに對して、自分のこの老婆心を採用していたゞきたく希はずにはゐられない。

托鉢中の一燈園の同人は、概ね供養される食物を、それが動物食であらうが、植物食であらうが、たゞ供養の心を受けるために、何の拒みなく、受けることに恐らくは、なつてゐるであらう。しかし、かゝる習慣の同人に於ても、一切衆生皆倶成就大圓覺の大願の上に立つ以上は、天香氏が嘗て「私はもうあたり前のものは食べられないのです。」と云つて、普通の食の供養を受けず、お釜の洗ひ汁を受けられたと同じ態度をもつて、「私は、もう動物は食べられないんです。」と云つて、ほかの、もつと憐愍の道にかなふ食餌をとることも出來るだらう。さうした態度が、受けるものゝ、我儘からでなく、眞に、惡しき業因をつくるまいとする敬虔な心と、一切動物に對する深き愛の心からとれるならば、それは却つて相手の菩提心を呼び起すことになるであらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明へ

八田勝三

人生は創造だ。一歩一歩が自己完成だ。一瞬の道草は永遠の損失であると共に、生命に對する冒瀆だ。

○

虚僞の衣を脱ぎ捨てゝ赤裸々になれ。客觀的に『見えた』ことに何等の價値なく、『在る』こと丈けが本當なのだ。毀譽褒貶は眞生命と沒交渉である。

○

差別界に住する限り、人生觀は各獨自であつて、相似性を有せるに止まる。共鳴して先人の行履を賤むも、歩む當體は、何處まで行つても自分であることを忘れてはならない。單なる眞似は、生命なき自己の幽靈への奉仕だ。

○

口だけ沈默を守つても、心の中で雄辯だつたら、五十歩百歩だ。自己を通じて感ずる光こそ眞實の當番なのだ。分り切つた事まで、問はれても『分りません』と云ふのは決して謙遜ぢやない。

○

私はもう外交辭令には飽き飽きした。婉曲なる表現を考へて居る間に、人生は過ぎて了ふ。眞實なる『愛と相互扶助』とは、粉飾なき率直なる言葉の間にのみ構成される。

○

心からなる願ひや、眞實の心持は、もつと喋つても好い。同人は語るなと云ふことに囚はれて居る。一人の疑ひは全體の迷ひだ。本當に一つに溶け合ふには、他意なく話し、僞らず書き、赤裸々に行ふことだ。

○

過日死刑囚の方から、熱烈なる求道心を書き連ねた御手紙を頂戴して、唯不德を詫びる外御返事の書き方がなかつた。法に觸れて所謂斷頭臺に上ると否とに拘らず、私達は一樣に生物なる限り、常に死に直面して居る。然も一瞬の後に忍び寄る死に際して、悔なく逝ける用意の出來て居る人が、果して幾人あらうか？　兄弟姉妹よ！『今』を生き切らう。人生は短かい。然も尚永遠性を具備する。

○

私の前に今は『過去』もない。『未來』もない。唯限りなく續く『現在』のみが躍動して居る。そしてあらゆる生命の生々した鼓動が聞える。一葉の若葉のそよぎも、戀に惱める人の子の嘆息も、はた血なまぐさき階級鬪爭の叫びも、其儘うけ入れて、私の生命はどん〳〵伸びてゆく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

來るものは總て心の糧に攝取される。そして絕えず新らしい私が創造され、無碍の白道を躍進してゆく。此の一事實だけを凝視して、私が如何に養はれてゐるのか、させて貰つて居る事が果して好い事か惡いか、又懺悔の心なしには、一粒の飯も食むことを許し難いと思ふ身が生存の價値ありや否やなどに就ては、批評される儘に任せて、私は唯『現在』に全身全靈を打込む。

○

東京の十字街頭に生み落された光の子は、漸く二回目の誕生日を迎へる事が出來るやうだ。お守りが何時も茫然して居るので、皆樣にも何時も心配計りかけて居るが如何やう斯うやら今日まで育つて來たのは、大きな惠みの化育だ。そしてまあ營養不良にもならずに、肥立つてゆくらしい。

さて滿二歲になつて、ぽつ／＼社會の種々相が眞にうつり出すと、知らんとする慾望が、幼兒の胸にも一時に燃え出した。好奇心はあらゆるものを對象物に取り入れる。然し此際に於ては、人としては成長するが、取捨の能力に至つては未だ缺けて居る。純眞さはあるが、尙稚氣を帶びて居る。親から見れば、思はず苦笑するやうなものでも、口に入れてみなければ、承知しない時代である。だから時には胃腸も痛めることだらう。併し何が甘くて、何か辛いかは知るやうになる。故に『一寸苦いかも知れませんよ。』と云つて、欲しがるなら食べさせてみても、決して徒爾ぢやない。但し腸チブスに罹つて居る時には、いくら好きなお菓子でも、食べさせないのが本當の慈愛である。

さあれ思想の過渡期に生れた此の子は、今後隨分苦勞をするだらう。だが好い試練だ。あらゆる試みに堪へて、文字通りに光の子になつてくれ。世は混迷そのものだ。暗闇に蠢動する人の子の上に、燦然たる光明あれ。

◇かれて廣告致してをきました通りいよ／＼六月一日より精神病者保養所を創めました
岩倉病院長の指導監督により保養者を親切安全に看護を致しますが當保養所は病院ではありません純然たる自由滯在の保養所でありますから何の手數も手續もなしに自由に滯在保養なさる事が出來ます
當岩倉は古來の傳說昔からの習慣及び土地そのものが精神病者の保養に最もよく適してをり周圍の景色よく空氣亦よく精神病者の理想鄉となつてをります我が國の中他に精神病者の保養所のある地はありません唯岩倉のみであります
尙委しき事を望まるゝ方には御一報次第保養所の栞を一部御近り申り申上ます
（京都洛北岩倉長谷　精神病者神經病者保養所　渡邊謙助）

一佛人より天香師へ

エー・エー・ヴォエセー

日本、『懺悔の生活』の著者　西田天香樣

私は或英文雜誌で、あなたの著書と生活とに關する記事を拜見しまして、あなたに對する大なる敬慕の念を起しました。私共は何等隔てなき普遍的生活（ユニバーサルライフ）に住する事を求めて居ますので、氣おきなく一書をあなたに呈します。

私は「トルストイ」、特に其著『福音書の結合並に飜譯』――それは大部の書を讀む事を欲しない人々の爲めに私が縮譯しました――の助けに依り眞理の道を歩んで來ました。殆んど廿有餘年の間、物質的事物に對する苦鬪を捨てゝ、農夫のやうに田畑を耕しつゝ眞理に從つて生活することを試みました。眞理に對する仕事は、私の家族を捨てねばならぬ破目になつた事を感じたので、私は「トルストイ」のやうに、私の妻と養女と共に暮して居ます私は、姉妹の一人である善良で純な妻を持つてゐます。彼は深遠な眞理は了解しないけれども、若い時代には贅澤な暮しをしたにも拘はらず、地上の果實で頗る單純に生活し、そして絕えず働いて居ます。

私の只今申し上げたい事は、「ヨハネ」は「イエス」に先きだつて現はれた如く「ヨハネ」の實在は「イエス」の實在に先行して居ると云ふこと、そして善良な生活に對する第一步は、物質的の事物に對する苦鬪を捨てゝ、物と仕事とを共に分けあふにあると云ふ事です。併し人々が此大なる眞理を了解し得る爲めには、「ヨハネ」や「イエス」がより多く自然に從つて其肉體的生活を爲したやうに、彼等の肉體を自然に從つて純化することが必要であります。肉體的生活をより多く自然(物理的)に從はしめる事に依つて、吾々の靈的性質の了解を助ける事が必要であります。眞理に對する此二つの運動は自然相關聯するものであります。數日前に私は「ニユレーフ」氏の著『唯一の實在として認めたる神』の序論の寫をあなたに發送致しました。氏は「イエス」の深遠なる眞理の或ものを新しい形で祖述しました。そして古への大聖達によつて創設せられた一つの宗敎より以上には無かつた。又あり得ないと云ふ事、及び各宗敎上の表面的相異は所謂宗敎的組織によつて導き入れられた誤謬に外ならない事を其書中で述べて居ます。そしてそれは諸聖の說かれた眞理を掩ひ隱して仕舞ふのである。私はあなたに關する其新聞の記事を「ニコレーフ」に送りました。彼はそれを露西亞と「ブルガリア」の友人に送りました。あなたに關する報道は丁度太陽が雲間から現はれ出づる時の暖かい光線の綺麗な赫紅のやうに、私共の前に現はれ來ました。あなたが、それを心好くお受け下さる事を知るのと、又唯一の實在である永遠な深い眞理を墨守する間は、何ものも私達を引離し得ぬ事を信じますので、あなたに心からの御挨拶を申述べます。私が日本語で、あなたに御手紙を差上げ得ないのを許して下さい。あなたと共に眞理を求むる貴國の方々によろしく御傳へ下さい。

（佛蘭西、プレエニス、サンイシドルにて）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

恵まれし日を回想して

安藤州一

渇する者は溪流に奔るといふが、私は人生に渇して恵みの溪流に奔つた。去年の二月三日に、荊妻は重き流感に罹つた、其後が引續いて神經衰弱となつた。元來人手の不足な家が、いよ〳〵不足に堪へられぬ事になつた。一昨年女中が去て已來、次の女中を發見せず、其まゝに過して來た。長女は高等女學校の入學試驗準備で、朝は早くから、夜は晩くまで學校に往來する、次女も學校の宿題などに追はれる。妻が夜の十二時頃まで、算術や圖畫の相手をして、子供を寢につかせてから、翌朝の準備を整へて寢に就く。それから五歳の少女が尙乳房をさぐつて寢る。冬期に及んで、長女の夜學が始まる、其歸途の迎ひに行く、正月を迎へる準備にも身體を勞した。睡眠が不足になる、これでは行かぬ、どうしても女中をみつけねばと言ひ乍ら、なか〳〵女中が見つからぬ。今日一日の仕事がすめば、また明日の仕事が來る。何か變化が來ねば、家庭の改良も行はれぬ。たゞ毎日の仕事に追はれる許りである。果然家庭に變化が起つた、卽ち二月三日よりの妻の流感である。當日は自分は大垣に講話に赴く約束であつたので、已むなく病める妻を遺して出發した。途中心に懸るので、草津驛から電報を發し、妻の姉に援助を求めた。姉は來て吳れたが、流感は五六日で直る者と思うて居た、ところが中々直らぬ。十五六日で熱は降つたが、不眠が續いたので、強き神經衰弱にかゝつた。二人の子供は學事に追はれる、自分は學校に出勤せねばならぬ、女中は容易に見つからぬ、看護婦さへも中中手に入らぬ。幸にして看護婦を得て、炊事までも手傳つて貰つた。表面では大病と見えぬので、看護婦も二十日ばかりで去つた。三月三日は學校で節句の式があるとて、子供の衣服を整頓すべく、妻が少し裁縫に手を出した處が、急に身體に震ひを生じて、甚だしき危險に陷つた。また電報を發して姉を頼み、種々に介抱したが、病勢は容易に退かぬ。二人の女兒も、十四と十三とであるから、時には母の病を察して、襷がけで臺所の事をやつて見るが、何分にも試驗を眼前に控へて居るので、學校を休む譯に行かぬ。暇があると女中を探すが、口入屋に頼んでも中々出來ぬ。世の中に無格好な事も多いが、男が飯を炊ぐほど無格好の事はない。それでも少年の時飯を焚いた經驗があるので、どうやら飯は焚たが、詩會に出す詩を作る暇がなく、或朝のこと、飯を焚きながら詩を作つて、かまどの前に立ちて、詩中靈性僧禪月。經外風流儒晦庵。といふ一聯を得た。幸にして善い援助人を得たこれは親類先きの一婦人で、和野(かづの)さんといふ女であつた。身體が强壯で、よく働いて吳れるので、非常に喜んで居た。然るに三十日ばかりで、其女の父が大病で急に故郷に歸る事になつた。いよ〳〵困つて來た。かねて人から勸められて、一燈園に頼んでみるが善いと言はれて居た。されど一燈園なる者の性質を知らぬ、依頼するにも氣兼ねがする。されど渇する者は溪流に奔らざるを得ぬ、結局鹿が谷の溪流に奔るべき日は來た。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

大正十一年四月三十日に、自分が一燈園に援助を求めたのは、荊妻の發病後八十七日目であつた。始めて一燈園の門を通つて刺を通した所、當番として面會して呉れたのが、金川最勝君であつた。君は初めは森田姓を冒して居たので、眞宗中學時代の友人である。此處で面會しようとは思ひもよらぬ事であつた。人生では、因と緣と二つの中で、因よりも緣が大切であるといふが、金川氏に緣のあつた事は、非常な好運であつた。一切の事情を話して援助を求めた所、君は快よく承諾して呉れた。今は適當の人がないので、出來次第派遣するとの事であつた。五月二日の朝になると、廣島の人で中田さんと言ふ女性が見えた。一燈園から托鉢に來た旨を告げ、庭の下駄を揃へ、手水鉢に水を入れ、合掌禮拜した後に食卓についた。中田さんは身體が纖弱に見えるのに、こんな恭敬の姿を見せられては、自分は涙ぐましくなつた。翌三日の午後は荊妻も中田さんと一緒に、清水公園に殘んの櫻を眺めに行つた。これが發病已來の初外出である。外出というても、家から四五丁の距離である。六日になると、中田さんと入り代つて、福島市の加藤あき子さんが來て下さつた。此人は已に五十の阪を越えて、愛娘に別れた經驗をもち、人生の荒浪も充分に經驗して居られる多分金川氏が、家庭に熟練な人を選んで、派遣せられたのであらう。加藤さんは西田天香さんの友人で、家庭にも財產にも、何も不足はないけれど、自ら進んで犧牲的生活に投して居られる。自分が世の中を救ふために、自分も亦救はれる歡喜を持つて居る。人を佛と見る人は、人からもまた佛と見られるといふが、君の如き人物であらう。五月六日には、三四首の歌が出來た。歌といふよりは、自分の實感を、ありのまゝに寫した短文である。これに由つて當時の自分の情懷も察せられることである。

　無生法忍の心を

露や泡ゆめまぼろしの我身ぞと、知つて消え行く罪のかず〳〵。

　因緣和合の故に業報あり

かりの世の春とてなどか忘るべき、柳はみどり花はくれない。

　五欲の樂みは疥癬をかくが如し

世の中を苦なりと知らでひたすらに、樂を求めて苦に沈み行く。

　火中に蓮花を生ずるの心を

七重八重なやみはてたる深泥より、かゞやき出る白蓮の花。

　煩惱を觀すれば菩提となる

智慧の手にとれば菩提の水となる、罪も障りも春の淡雪

この歌を加藤さんに見せた所、加藤曰く、私の知つた家に七十の阪を越えて、佛とも法とも知らぬ老婆がある、其人に此歌を見せてやりたいと。安藤曰く、しかし加藤さん、七十まで御法を聞かぬ人が、この歌を見たとて、何の心の氷が融けますかと。加藤曰く、それでは私は、御禱りするより外はありませんな——と。二人の間にこんな問答が交換せられた。八日には加藤さんが去て、越前

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の人德永さんが來援せられた。十日には廣島の人桑本さんが見えた。此日自分が學校から歸ると、桑本さんは二階で硝子窓をふいて居られた。直に襷をとりて御挨拶をせられた。高等の教育を受けた人だけに、何處ともなく嫺雅な風貌か見えたが、只一日限りの托鉢であつたので篤と話をする時間もなかつた。先日父の大病で歸國した和野さんが、再度來援せられたので、一燈園の人々の來援は暫時途切れる事になつた。

○

人生は一の戰場である、第一線が破れると、第二線第三線が動搖を初める。第三線が浮足になると、終には中軍が亂れて來る。しかし自分の家は、二月三日の荊妻の發病で、已に第一線が破れたのであるから、二線三線の動搖は已むを得ぬ。五月十四日の夕から、五歳の少女が發熱した、然るに廿二日に至て、十三歳の房子が病牀に着た。此處で中軍が動搖しては大變であるので、萬事は和野さんに賴んで置て、自分の元氣を養ふ事に勤めた。二十五日には伏見に詩會があるので、朝から出かける事にした。何より好きな詩會である上に、二月三日已來の病人續きで、こんな時に充分元氣を養ひたいと思うた。明治大帝の御陵の側から、乃木神社の前を通り、會場たる三夜莊に着た時は、杜鵑花の燃える色を巖上に眺め、欄干の下には、宇治川の碧流が長く帶を引て居る。大帝威靈松柏秀。將軍忠烈鳥魚知。とは自分の得た一聯であつた。萬樹光輝近陵域。千年形勝據城墟。とは花山霞外上人の一聯であつた。今日ばかりは心ゆくほど詩魂を慰め、山水の佳色に醉うたので、數月來の疲れも一時に消散した。點燈頃に家に歸ると、病人達は待ち構へて居て三夜莊の景色や、詩會の有樣などを尋ねる。病牀の人は珍しい事を聞くのが非常の慰安であるらしい。此日の各人の詩をよんで呉れと言ふので、意味の分る分らぬは別として、彼等の慰みになると思うて、四五首ほど聲高く朗吟すると。澱水西流三十里。鐵山南控八千年。といふ松島無邊上人の一聯をよんだ時、十三歳の房子が病牀の中から、その詩が一番善いやうであると評する。詩の意味の善惡が分る筈はないが、彼れは朗吟の調子を聞て、彼れの心中に美的感情を起した者を、最善の詩と考へたのである。但し調子ばかりでなく、意味から云うても、無邊上人の詩が善いやうである。人間は先驗的に、藝術の觀念を持て居る者と見える。和野さんが來て、折角働いて呉れて居たのに、彼女は今度緣づく事になつて急に故郷に歸つた。またもや一燈園に賴まねばならぬ事になつた。五月三十日に、已前に一度見えた德永さんが再度來援せられた。何とも御禮の申樣がない。六月八日には姬路市に講演の約束があるので、萬事を德永さんに賴んで出かけて行つた。明石驛から、友人の二階堂隆正氏が乘りこんで、姬路に同行して呉れた。家庭の病人に就て種々慰問せられた。四日間の講演を終へて、十一日の夜歸ると、德永さんが自分を迎へて、奥さんが少々惡いのです、醫師も大した事はない、ほんの僅かの故障で、橫腹に水が溜つて發熱したのですと。嗚呼彼女は肋膜になりたる也。神經衰弱が直らぬ中に、またも肋膜に罹ると

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

はよく〳〵不運な女である。徳永女の言語が、自分を心配させまじと、病氣を輕く言うて呉れる親切は難有いが病氣はあまり輕いとは思へぬ。旅の荷物を卸すと、其まま看護婦を探しに出かけた。幸に看護婦は其夜の中に來て呉れた。翌十二日に姫路歸りの御土産として、看護婦と徳永さんに、ハンケチを二枚宛贈つた。このハンケチは姫路で、早く夫に死に別れ、三人の子供を携へて、人生の悩みに疲れきつて、頭髪さへ亂れがちの女が、講話を聞て安慰の光りを見出した御禮にとて、別れに半ダースほど贈られたので、これを二人に分與したのである。然るに看護婦は喜んで受取つたが、徳永女は中々受取らぬ私は一本の手拭があるから、其れ已上の物は邪魔物であると言ふ。これには自分も推して勸むる勇氣は無かつた。天下非細瓢非大。身外之物凡爲累。といふ詩は、許由かたゞ一箇の瓢をさへ棄てた事を詠じた詩であるが、徳永女の心事も同じ意味である。これに由て自分はハンケチを贈る事を断念した。六月十四日に、徳永女は去て東京の親戚の中に向はれた。予は別れに臨んで、清水焼の水呑を一箇贈る事にした。價格は僅かに拾五六錢のものである。自分は徳永女に向つて謂つた。昔印度の一國王の御殿に青年の盗賊が忍びこんだ。右手に白刄を提けて居る。國王は餘りのおそろしさに、蒲團の中に顔を埋め、熟睡の風を装うて其様子を窺うた。盗賊はあまりの空腹に堪へかねて、王の枕許に進みより、皿に盛られた麥粉のやうなものを湯呑に入れ、鐵瓶の水を注いで三杯ほど飲んだ。暫時首を傾けて考へて居たが、何と思うたか――物も取らずに出て仕まつた、他日此盗人が逮捕せられ、國王の訊問を受けた時、ありのまゝに心中を告白した。實はあの時空腹に堪へかねて、麥粉に水を注いで三杯飯みましたが、よく調べて見ると、麥粉でなくて火鉢の灰であつて、それでも一時の飢を凌ぐ事が出來た。人間は愈々食物がつきた時は、灰を水に浸してのんでも、一時の飢は凌げると決心したから、最早や人の物を盗む事をやめ、今後は饑餓に脅迫さるゝ事なく、飢ゑたら灰に水ぢやと決心して、今は他人に雇はれて働いて居ると答へたので、國王はその聰明を喜び、戸籍を調べて見たら、父祖は相當の大官であつたので、この青年の盗人を官吏に取り立てた處が、終には國政を司とるの大官となつたと、馬鳴菩薩の著書の中に在る。徳永さん、これから人生の荒波を渡るのに、食物が無くなつたら、どうしようかとの悲觀が起つたら、どうぞ此水呑を眺めて、最後の時は、この水呑に灰を入れて飲むのであると思うて、どうぞ元氣を回復して下さいと言うたら、今度は徳永女も心よく水呑を受取つて呉れた。されど此頃希臘の哲學者ダイオゼネスの傳をよんだ時、彼れは簡單なる生活を營み、一箇の水呑み茶碗を持て居たが、或日小兒が溪流に臨みて、手の掌で水を掬んでのむのを見た時、この茶碗も餘計なものであるとて、終に茶碗をも棄てたとある。今から思へば、徳永女に贈つた茶碗も、餘計な事であつたやうにも思ふ。徳永女が去る朝、一燈園から中島せつ子さんが來て呉れた。徳永さんも家族等も、うつかりして朝飯を上げるのを忘れて居たので、終に朝飯なしに中島さんに働いて貰つた。世の中には、普通の御馳走は誰でも差し上るが、私は断食の御馳走を差上る（三九頁へ）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

柿の木は育つてゆく

横濱一燈園　白　彦

　さうだもう園を預らしてもらつてかれこれ一年になる柿の木は育つてゆく。部屋の小枝に青白いマーブルの様な葉が出た。よく地主のお爺さんに、

「おめい、切れよ其枝に油蟲が着くといけねいからなあ」

「はい、でも、これが無いと淋しくて」

「はあ、おめい達はさうかなあ」

　お爺さんは私達の淋しい心持が幾分でもわかつたらしい。じつと柿の木にはひ上る自動車の様な黒蟻を見て言つた。嘗る様にして大きなどす黒いキセルから濃い紫の煙をはいてゐる。靜寂！ほんとうに伸び伸びしてゐる。ここへ來たら、あらゆる悩みも、苦しみも皆ふうわりととけ合つて消えてゆく、長く細くお爺さんの煙草の煙に巻かれて十萬億土に飛んでゆく。

○

　入梅に入つてからなにより氣になつたのはこの可愛い美しい柿の白葉だ、白が赤くなりそして青くなつてゆくもう下の方の葉は一人前になつてかなり固い。先日天香さんが一寸お寄りになつて、こんな樂書をなさつた、而も一枚しかない大切な唐紙に。

「柿殿や何分どうぞたのみます」

ところが又この園を作つた人が屋根がへに來なさつてこの唐紙を見て是非かへしてくれ、これをはいで掛物にしておかうと、近い間に遂々とり上げられることになる。

園は山の中腹で高臺に建つてゐるせいか風が吹きつけて時々驚かされることがある。家が古びて來たのか柿が育つて來たのか、とにかく戸が堅くなつたり、ところどころの板がはづれたりくさつて落ちたりする。ことに、この頃の雨風には一睡も出來ぬ夜が續く。天井から百足蟲が落ちる、雨が洩る、風が雨戸をはずしてもつてゆく、雨風がふき込む、大事な命とたのむ柿殿が揺れる、揺れる。そして一晩中せまい部屋の中を蒲團をもつて這ひまはつてゐる、しまひにはぬれてもかまはずじつとしてゐる、其の中に不安な心持の悪い夜があけて、ねむい眼をして新しい日をむかへねばならない。

○

　しつとりと大地の濕んだ朝などは總てが感謝に滿ちてゐる。地上の萬象が皆につこりと笑つてゐる。雨あがり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の白いもや。風がないがゆらゆら搖れて動いてゐる。脚下の部落は屋根が見えない。まるで夢の國の城が空に浮いた都だ。其の中から鷄の聲が聞えて來る、のんびりと太古の樣な靜けさで。まもなく背にした山から强い燒きつける樣な光。朝の陽が昇る。高い古い樹立の間を縫うて赫として。詩が生み落される、繪が畫き出される。暫くして讀經が初まる。

○

麥秋もすぎて野良には一面に黑土がはみ出た。ところどころに馬鈴薯の花が見える、人參の繁つたのを見る、ねぎが青くすくすく立つてゐる。そして茶室の園が其の中にいこつてゐる。

クラシカルだの何だのと言ふ人があるそれに四圍の自然が圓ろみを帶びてやわらかい香ひがして來たのがことにのんびりする、いらいらしたときの一時の氣休めに良い所だ。

よく東京の同人が來られる、其のつどつど何もないが麥飯まじりに、味のない味噌鹽汁を供養するが、

「あゝうまい、ここで頂く御飯が一番だ。」

うれしい、うれしい、柿が育つつれにて惠みが深く根ざしてゆく、秋に赤い果のとれるのをまとう。

夕映の空がはつきりと田面に浮んでゐる。赤い雲の尾が伸び上つたりちぢんだりして底を走つてゐる。

山越えに撞き出された鐘から大きな音が太く長く肩をゆすつて野末に消えてゆく。

やかましくないてゐた雀がもう眠つた。園が近い、すすけた障子の蔭に明星の樣な燈が光つてゐる。

「明星樣が出たよ！」

とよく下の子供が野良に働いてゐる父母を呼んで夕餉の仕度をいそがしてゐる。

托鉢につかれた重い足をひいて園にたどりつくと中から靜かに同人の聲で

「おかへりなさい、ごくらうさま」

と言はれる嬉しい勿體ない、ほつとして合掌して上る。

まもなくきざまれる樣にして夜が來る。ふくろが淋しく向ふの墓地で鳴く、蛙のオーケストラが初まる。蚊がお勤めしてゐる同人を刺す。

(三七頁より) とてわざと食事を出さぬ人があつたと聞て居るが、自分のは本當の過失で、午後になつて德永さんも、非常に氣の毒がつて居た。これは全くの過失であるけれども、これも修行の一分で、斷食の御馳走と思うて、私共の過失をゆるして下さるなら、なんぼう嬉し事でありませう。前日淸水公園に散歩した時二首の歌が心に浮んだ。

心は、本太虚なり

み光に照されてこそ善し惡しも消えて一如の月を眺むれ

無我の生命

すてきれぬ此身の爲に沈むなりすてゝぞ浮ぶみ光の海。

德永女は別れに臨み、この二首の歌と、御名號とを書て呉れよと言ふので、望みのまゝに書て贈り石段下まで見送つては別れした。其後一度東京から消息があつたが、此頃は更に消息をきく事が出來ぬ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

◆光讀者芳名錄（二）

大阪・東區

安土町四　伊藤萬助
黑門町二一三　岩田吉男
東高津北ノ町九四　市川新丼
南本町三　市田岩次郎
南本町四　西田藤吉
今橋五　本莊宰甫
平野町一ノ七　德永伊兵衛
備後町五　大脇庄一
淡路町三ノ四〇　加納梅洋行
平野町二　武田二郎
北久太郎町一、一九　伊藤俊光
常盤町一、六七　永江爲政
淀屋橋南、關西日報社　內田疏天
西高津、中寺町正濟寺　山田英隆
紛川町八　山下陶雄
內平野町二　八木清藏
備後町四、八　松本鐵次郎
瓦町四　松本商店
瓦町四　松田保次郎
內淡路町二、三一　馬淵龜之助
越中町八八九　近藤政予
住吉町　壽洋酒店
東高津南ノ町　相葉猛
上本町一〇、二六三　赤穗三郎
北濱五、橫濱生絲會社　杉田茂三
備後町三　木村猷吉
本町四、津村別院　小林卯一郎
平野町三ノ二四　鈴屋

西區

市岡町市岡第三小學校　乾市松
三條通四、五一 齋藤方　初村代四郎
市岡町 市岡高等女學校　畠田繁太郎
土佐堀裏町一　西田永助
北境川町一三七 和田方　和田延三
新町北通二　川口誠一郎
川口、百番館　太田外世雄
江戶堀北通三、六、南側　金森松壽
江戶堀南通一、帝國興信所　倉地章
新町南通三 北島方　松野成夫
常安橋南詰　秀能井郡司
本田三番町七五　三谷郁太郎
安治川上通 住友伸銅所　三村
新町通五、三　新納キケヱ
安治川通 住友伸銅所　山中柴和
同 同　小山九一
安治川通 同　田島房太郎
同 同　田中作二

南區

上本町七、五二六五
天王寺排谷停車場前
鹽町三、一七
夕陽ヶ丘高等女學校
同心町二、四五二
大寶寺町東ノ町六一
瓦屋町五番町三七
安堂寺橋三 三菱商事會社
天王寺大道一、西門南
順慶町四
天王寺大道一、二二四六
安堂寺橋通四 上田店內
大寶寺町西ノ町
天王寺北山町五四六三
炭屋町一八
天王寺洽人町四八七四
大原社會問題研究所
水崎町 中山太陽堂
三津寺町 佐野屋橋筋
鹽町三 淺野方
天王寺細工谷町
安堂寺橋四、一八 矢部作店
天王寺、堂ヶ芝町五五六一
長堀橋筋一、二九

岩橋武雄
井上定治郎
井邸てい
太田原泰輔
川下福松
吉田新太郎
高田重五郎
高嶋長信
上田幾太郎
山田元一
松本榮藏
松尾國藏
牧川玉吉
藤浪健二
五藤藤松
高野岩三郎
古谷寬二
安田忠藏
淺野清次郎
桃太郎店
實川政男
手佐操子
北川敏郎

日本橋筋三十四銀行內　齋藤牧太郎

北區

新喜多町番外二一　石津製造所
窓町一、五七 大浦方　礎部千一
澤上江町二八　磯部本明
大阪出入橋局內　西上俊
安治川上通 住友伸銅所　辨官爲秀
堂島中町一 教育日本社　富岡秀耀
中之島大阪中央電信局　戶川三郎
下福島三、一七五　豐田正太郎
南安治川通二　岡嶋伊八
曾根崎新地二ノ三四　川見あさ
大阪每日新聞社　米田猪三郎
野崎町六七四　高井良一
高垣町四三六　高畠松三郎
櫻宮中野町三四　竹內時次
天滿橋筋西四、二二　大正日々新聞社
若松町八　坪內貞一
天神橋筋一、八五　藤田淺子
若松町八　惠下田照雄
南安治川二、六三　小松善四郎
若松町二七　佐藤重三郎
西野田、吉野町一、三五〇　水上豐子
中之島六、六　島本壯吉
老松町三 商道社　島田武夫

市外

豐崎町本庄五六　伊與政廣市
天下茶屋聖天阪　生田信一郎
十三、村堀　西田信吉
池田町建石町三、三〇〇　大浦正三
豐崎町本庄五二一　大井文郎
吹田町　岡田次郎
十三、本町二一 宮崎方　武田之三郎
天下茶屋聖天阪　岡田才治
濱寺公園前八七四　片岡敏郎
鶴橋町、桃谷五八一四　鵜飼重光
堺市、向井町三國丘病院　八木ツル子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

吉田暎二著

戯曲集 悪魔の群

定價金壹圓八拾錢
送料金八錢
四六判 三二〇頁

最新刊

私は自分の初めての本の出た事を喜んでゐる。この本も私の一生から見たら大したものでないかもしれない。しかし現在の私にとつては大切な足跡だ。紀念だ。この本に納めた四つの作品は、貧しい未定稿ではあるが自分のものを出してゐると思ふ點に、世に問ふだけの自信を感じてゐる。「悪魔の群」は前に「光」に連載させて貰つた。「道化」では「家」と「藝術」との間の問題を取扱つた。「父」では、「道」と「家」との間の問題を取扱つた。「道」に入るに「家」を捨て、「藝」を求めるに「家」を捨てる。それは正しいか、何うか。この問題を常に考へてゐられる人々にとつてこの本は無駄にはならないだらう。私はこの本によつて道を同じふする人と手を握りたい。而して共にあゆみたい。その機縁の爲めにでもこの本の役に立つ事を祈つてゐる。（著者）

發行所 東京市外高田雑司ケ谷五九一
段丘社
振替東京六四六七九

發賣所 東京市日本橋區元柳町十
青々堂書店
振替東京四一八八三
電話浪花九六四

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

中桐確太郎著

・西田天香序・小此木渾沌題字

光明祈願にそへて

發行所

東京市神田區表神保町一〇

株式會社 春秋社

振替東京 二四八六一番

電話神田 二一三八番

▽一燈園生活の理論的説明

▽『懺悔の生活』の姉妹的名著！

中桐氏は一燈園の創立當初よりその精神的外護者として、かのパスカルがホールロワイヤール尼僧院に於けるが如き位置にあるの人、多年の思索と研究と體驗とに更に幾精練を加へたものであるから、園の生活は玆に初めて識者の批評對象たるべく、懺悔の生活の讀者にはその基礎的體系を與へるであらう。顧みれば今から二年前『懺悔の生活』の初めて世に出づるや、その賣行と相比例して、天下の毀譽喧ずしく、爲に一燈園の光も一時は暗からんとした。而も光と道とは此種の疑惑で滅燼すべきものでない。見よ、群疑を排し惑念を正すこと、恰も皎々たる明月の雲際を出でたるが如くにして思想界を照すものは本書である。蓋し本年出版界の最も注目を要する名著であらう。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

定價 金貳圓

送料 金拾四錢

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN